野津原方言集

23

§　二の瀬三の瀬　無事瀬を渡り　山際浮動に笠を脱ぐ
ハ　七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラ　ホホイホイ。

§　あん娘可愛いや姉さんかぶり　いつか覚えた馬子唄を
ハ　七瀬のせせらぎ　小鮎がスイスイ　ホイホイホイ

「肥後街道　二～三の瀬を渡る」

平成二十二年　横一三五・縦五三

野津原方言集　続編№２３号　　平成２８年１０月

表紙画……酒井治郎
題字……姫野順子
カット画……カット集団

★　ご協力いただいた皆様。

酒井治郎。松本英明。末松禅勇。佐藤延人。秦清。
松岡実。大塚覚。武田忠。橋本杉平。三輪のぶ。佐藤昌史。
奈須虎夫。妻城義夫。利光節子。佐藤吉晴。

岡本政雄、足立勇、波多野テル子、佐藤ミチ子、橋本寛治、
佐々倉幸義、田辺正明、豊東サツキ、中山ミチエ。
大島照夫。雨川元善。小野雄司。斎藤キミエ。安達延子。

★　使わせていただいた資料。

野津原村報、宇曾山物語、文化財こぼればなし、歴史記録、
読み語り資料、大分県１００年史、全国方言辞典、月の唄。

★　調査収拾…小野寿祐子、佐藤源治、那須政子、赤星ヨシミ。
発行協力…甲斐英行。カット…那須政子、カット集団。
監修印刷…小野寿祐、赤星ヨシミ。編集構成…佐藤源治。

平成２８年１０月吉日
〒８７０…１２１１　野津原方言調査会　会長　小野寿祐
☎　０９７…５８８＝０５７２
☎　事務局…５８８＝００９２

もくじ0

見だし……1
目次……2
はじめに……4
★ 宝の玉手箱
ホタルコイコイ……5
七瀬川のヤナ……7
川まつり……9
方言説明……10
竜舌蘭物語……11
そん絆が実って……13
方言説明……14
★ ふるさとん味
バナナ牛乳パセジュース…15
焼き米は故郷の味……17
方言説明……19
★ あげなこげな話
野津原神社楠の木……21
人と人の行き来……22
新しい野津原音頭……23
方言説明……25
★ 方言単語のひろがり……27
女性の底力
声かけで太る野菜……39
クチナシ執念……41
予想に反した人生航路……43
★ 五助街道☞宇山物語(3)
女人禁制り起こり……45
さとの修験場……47
円福寺……48
方言説明……51
炎のなかの語らい……52
鬼と天狗の名勝負……53
★ 方言子ども世界
チマキダンゴと端午の55
帰って来た宇曾の鬼…57
三佐から竹田は……59
方言説明……60
★ 民話伝承
方言説明……61
竜神祭った供養塔……63
指が消しごむ……65
方言説明……65
★ あげなこげな話
湛水地名ん由来……67
昭和55年代ん故郷…69
干ばつ被害記録……71
方言説明……73
蛇口水漏れほか……75
北海越えて……76
★ 方言単語のひろがり…77
★ あれかる22年あまり89
★ 方言単語……95
★ あとがき……99
★ 伝言板……100

△△△　はしめに　△△△

平成２８年４月１４日朝　突然の地震が熊本益城町中心に　震度７県内最大の被害が熊本県　大分県の一部までひろがり　１５日にも続き家屋の倒壊　野山の被害など負傷者１０００人越え　非難者７３００人と雨もあって　自家用車での宿泊など　非難所でも不便さもって難渋　それか余震が毎日のように続いた。エコノミー症候群の渋滞や心身の疲労が　とめどもない余震と雨に追われる　悲惨な地震が続いて　建物被害や住居不足　交通被害農地災害などで生活環境は瞑想が続いた。

亡くなられた方のご冥福や　罹災された方々に心より　お見舞を申し上げます。全国から見舞いの支援　ボランティア活動での復興も続くが　あまりにも広範囲の被害や　道路災害に苦難の月日が流て　完全復旧には相当の時間と　予算が必要になっている。震度７４ヶ月すぎた８月末現在　熊本からの人工流出は１４５６名。まだ震災収束宣言はいつになるのか……あまりにも大きな被害に生活基盤が失われて　一日も早い復活をみんなで　応援してあげたいものです。健康で明日の夢が描かれるように。自然の怖さも痛い。

それだけ環境が悪化した　全地球ん汚染がもう　心配でならない状態まで　来たようにも思われる。宇曾山に登って　空気のよいのを腹ひとつ　吸うと健康そんもんじゃが。無理は禁物です。１２０歳まじゃ　サカシュしち　たった一度きりの人生心豊かに　有意義にお過しを　お祈りしています。

方言集も大分図書館にも　３冊謹呈致しますが１冊は　永久保存してくださっています。遠くは埼玉、千葉、大阪、広島、近くし福岡、熊本、愛媛、杵築、上浦、由布、大野、三重、別府竹田、佐伯、津久見、など県内にも多く　大分市各地にも。

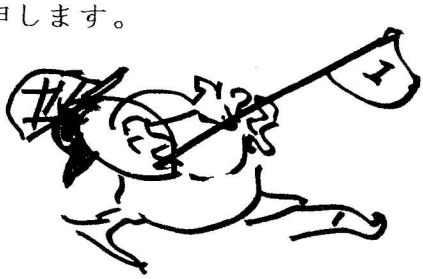
毎回多くの皆様の　ご支援ご協力によって　又ご愛読によって発行が継続しています。いわば愛読者の皆様に　変わって発行しているようなものです。長い間の故郷の歴史の中に　生き続けて生活用語としてつかわれた　方言は生活文化のなかで　大きな力をもっています。

さらに多くの先人たちが　残してくれた故郷の財産　文化財なども　それがあったことで　今の野津原があるのだと　思いますし　そのために努力した功績は　実に大きいと思い　感謝しています。だからそんな先人たちの　残した高貴な文化や　遺跡や習慣　素朴な行事なども　できるだけ多くを調査しつつ　掘りあげて残す責任もあります。

言葉は誰にも使う事のできる　道具用具であり　共通した生活の文化と思います。それが近代化社会になって　少しずつ消え失われて行きます。新しい感覚も結構ですが　ふるい生活文化には　捨てがたいものや　消せない情愛もあるのです。それらをできるだけ堀挙げて　陽にあてて感謝したい　そんな思いで素人が続けています。限定１００冊の手づくり冊子です。

お粗末な冊子ですが　ご希望の方は気軽にご連絡　お待ち申しています。直接お越しくだされば《郵送なら料金が２９０円負担になります》　ご協力頂ければ幸せです。

ご協力の皆様の中には　すでにご他界された方も　いらっしゃいますが掲載記事に関係の際は　お名前を掲載申しています。心寄せ頂いた感謝の気持ちからです。ご了承ください。方言でない言葉や使ってはいけない　言葉も方言集の性格上使ってあります点も　ご了承ください。ごゆっくりご笑覧のほど　お祈り申あげて　『宝の玉手箱』から　ご案内を申します。



★　幻想的な蛍の乱舞　★

ホーホー蛍こい　こっちの水は甘いど　あっちの水は苦いど。童謡にも唄わるるが　そん幻想的な蛍ん　生まれ育ちんロマンは知る人、育てる苦労する人ん　こたー少ねぇごたる。まぁそこまじ追求せんでんいいが　健気に乱舞する短ぇ命　ムドガッチヤラニャ　あんまりにもムゲネェ　そげな気もするごたる。

吉熊谷は大昔ん地底ん隆起によっち　盛り上がった場所じ　限られた周辺ソコラだけが　美しい石に恵まれちょる。清水んごたる水が山ん滴を集めち　ここまじくるとチッタ多ぅなる。あんまり美しすげてん肝心の　餌がねぇと蛍もイノチキが　出来んきナエ困ったコンニャクになる。

じゃが故郷を大事にせにゃち　取り組んだシドウが　チットおる蛍に魅かれち『何とかしゅうえ』ち　取り組んじもう　１０年以上も過げたんが　やっぱ努力ん賜物じゃな。美しい清水ん谷底を　ハイクリマワル『にな』が　おるもんじゃき　こきー蛍が生きらるるんも解ったごたる。

世話役も卵かる土にもぐる　そこじ太る期間の謎解きに　執念ぬ燃やしちトウトウ　生まれ育ち飛ぶまじん　夢物語んストリーが出来上がった。そりゅうコン谷川に移す　こんだここじイノチキが出来る、そしち乱舞ん舞台に誘い　見事な演出によっち　夏んひとときを　司会進行したナレーション。

夜空に宙ん絵をいくつにも描き　出す芸術はまさに　蛍冥利に尽きる最大ん芸能でんあろう。谷底じ食いつなぐ餌ん　飼育確保にも取り組んだ効果が　苦労ん積年にやっぱ　ご褒美があったち笑顔が美しい。苦労しち施しちょきぁ　きっと報いもあるもんじゃなぁ。ち満面の笑顔がひろがった。

なんさま蛍ん寿命が１年じゃき　舞台係はセワシイ　ナんチャねえち言うたもんの　取り組んじ見りゃコレマタ　短けえだけにムゲネエもんでんある。世話役リーダーは　卵かるカイワルルん幼虫、餌にする『ニナ』ん　飼育ち同時進行ん裏方と　『忙しいなぁ』ち　水向けたら『忙しいな　いいことじゃき　それだけに元気おらるるんで』　これにゃもう　最敬礼です。

特定場所に　蛍ん産卵、そりゅう育つる、同時進行ん　ニナん飼育まじが　いやーまぁ１セットジャナ　アッケラカン笑うそん心ん中にゃ　夏ん晴舞台に　多くん人たちが『喜んじくるりゃ』ち　汗かき仕事が続きよる。生き物の管理、気候温度の調整なんかが　邪魔することじゃつちある。

じゃが成果はチットズツ　広がった。大分市施政１００年の夏乱舞は《２０１１年》は　晴舞台に蛍が　勇躍サービスを繰りひろげち　約１５００人が　こん谷周辺に集まった。アイラブユーち　言い寄るんかん知れんが　そん影にゃ長年　苦労しち企画した　蛍ん夢物語ん舞台が　いまここに華ばなしゅ　お目見え。

『あんたどう　よかったなぁ　骨おったけんど』『いんげなこと　これも皆さんの　お陰で　うっとどうもぅ　嬉しい』　感涙する横顔に　サット近寄った蛍が　投げキッスしち　飛んじいったのんが印象的。それだけ感謝しよるんか……今年も多くん人たちが　喜こんじくれたな　嬉しい事じゃなぁ。

ほたるコイコイ　飛んでコイ　アッチの水は　苦いど　コッチの水は甘いど　早くコイコイ　蛍こいこい　飛んでこい。

澄み切った谷水に　そっと手をつくると　もうヒンヤリ冷めてえが　もう今頃は　幼虫が太りながら　来年夏ん　舞台を待っちよるんじゃろう。

七瀬川　一の瀬の『やな』

参勤交代ん頃かる　七瀬川じゃユウ鮎が　取れよった。馬子唄にも出ちくるが　ピョンち跳ねた　銀燐なまさに　元気そんもんじゃつた。

§肥後か府内か　一の瀬渡りゃ
　お国訛りが　懐かしい　ハ　七瀬のせせらぎ
　　小鮎が　スイスイ　ホイホイホイ§

街道が　野津原宿場町ん　一の瀬を渡ると見りゃ　右手ん山に入っち上る。こくう　赤坂石だたみ　が伊塚に連なっちょる。途中かる右手が　野野台ん狼煙台、左りゃ柿野に連なる。そんすぐ目の下に七瀬川が　ツグロ巻いたごつ　流れ下っちょる。ここにあるんが『一の瀬ヤナ』　川をヨコタクリ　遮断しち石積みが向こうまじ続いち　流れち来た水が　そん上に流れおつる　仕組みになっちょる。

昔かる鮎が多かったち　物ん本にも出ちょるごつ　餌が多いきかゆう　取れよったもんじ　こん川ん組合に　入っちょるしたちが　『やな組合』を　作っちはじめたもんじゃった。やなん大けさは　長さが５間あまり《約８Ｍ》　幅が２間《約３，５Ｍ》ぐれに袖がちーちょるき　もっと長ぅなっちょる。

それも檜ん丸太じ　具合ゆう組み上げた上に　竹を並べち水がそんげ　流れ落つる仕組み。水は途中ん隙間かる　抜けてん鮎は潜り落てん。落ちてんソリャモウ　コンメー分だけじゃき　また太っちコキークル算入になる。誠ちゆうまぁ　考えたもんじゃつた。感心もでけんが　こげな仕掛けじ　太っち下るんを　ごっそり生け捕りにする。

『しもぅた』ち　気がちーたけんど　水が流れおつる圧力じ

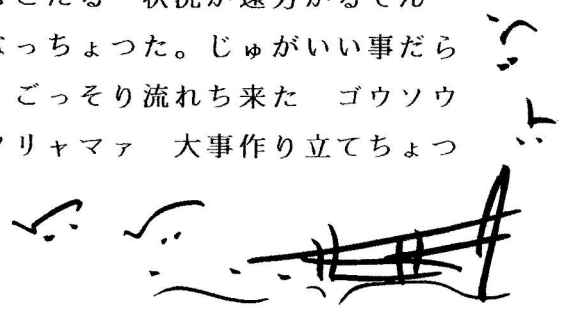
そん竹に吸いつけられち　身動きが出来んごたる。ピンコシャンコ　跳ねよったが　いつんなかめーか　大けな手が近寄ったち　思うたらワシ掴み。いっとき来んち　思うとこんだ　鳥がヒュロヒユロと　ツージ来たらもう　一巻の終わりになっちしもうた。

適当な雨が降っち　水かさが５寸ほず《約１５Ｃ》　増ゆるとおおごと捕れよった。大漁は年３回ぐれか　そん時どま鮎が５０キロぐれ、鰻が３０キロぐれ、かかっちもう　買い手か多かったそうな。５月かる１１月１０日が　漁期になっちょつたき　こん頃がゆう捕れよったそうな。

たまにゃスッポン、ニラミツクルゴタル目じ　じっと見らるると　チョイトおじいもんじゃ。鮒も　ズカニも　そりゃまぁ楽しみな期間　じゃが交替じ番ぬせんと　取らるりゃ何のことか　ふんともうヤエコチャネェ。収穫にゃ竹ん簾を敷き　鮎は手つかみ　鰻は手網じすくう。

どんこんねえ多い時ぁ　ドラム缶に穴をあけち　入れよったが　小屋に運ぶと　串指しにしち立て　焚き火じ焼いち食う。水質がいいもんじゃき　そりゃもうウメーナンチャネェ。じゃきそん頃いなると　かぎつけち来るしも多い。難しい規則も約束もねぇ趣味的な　漁じゃったき多い時にゃ　臨機応変な時ん判断じ。

天気のいい日の大漁は　まぶしい太陽に　竹の上じ跳ねる鮎ん銀燐が　キラキラ目に染むごたる　状況が遠方かるでん眺められち　夏ん風物詩にもなっちょつた。じゅがいい事だらけでんねぇ　しけどまくると　ごっそり流れち来た　ゴウソウガ荒らし砂が　乗り上げち　ソリャマァ　大事作り立てちょつたそうな。



ヤナがやんがち　のうなったが　七瀬川ん鮎はやっぱ　そん姿をシャント残しち　ずつと世話役たちが　受け継いじメエ年　川に感謝する『川祭り』が　賑やかぅされよった。名物ん『かに飯弁当』どま　予約しちょかんと　なかなか食えんごたる。組合が前もっちシコした　カニやら鮎やらが　こん日は主人公。

川べりに組んだ　祭壇に供え物をしち　読経んあと儀式と余興もあッち来賓以外は予約した　そげなしたちも入った　川祭りにゃ鮎を焼いた香り　カニ弁当ん仄かな匂い　ソコラソンゲニ　何とも言えん雰囲気が　懐かしいヤナん話にも　溯っち関係者ん苦労に熱いもんさえ誘う。

やんがちすると　環境変化やら　発電所の廃止やら　農業形態も水利も異変する中で　漁業は貧しいけんど　継承しながら　水に対する想いは　受け継がれて　変貌しよる中じ　稚魚ん放流は続けちょるが　いかにせん水量が　少のぅなり　特に夏以外は手叩き水程度んありさま。

これじゃもう　元気な鮎もガニも　生きるんがオオゴトじゃ。ヤナん夢とロマンんあった　あん頃が走馬灯んごつ　甦るけんどもう　それも知る人が少のうなった。鮎焼く煙りが　一の瀬橋まじ流ると　橋ん上かる『ここじ弁当食うか』ち　オサイハいらんごたった。

古い異物んごたる『やな』じゃが　あれがあったき　鮎も元気ゆう　増えち喜ばれよった。水ガ少ねぇとドニモナランたぁ情けねぇ話じゃが　これも世相ン流れにゃ　ドにもならんじゃろう。『世話になったき　弁当食べちくんなぁ』　かに弁当ヲ持ってきちくれた　なんと人ん心ん　優しゅう暖かなことか。

§　あん娘年頃姉さんかぶり　いつか覚えた馬子唄を　ハ七瀬のせせらぎ　サラサラサラサラ　ホイホイホイ…§

方言説明

5ｐ　こたぁ…ことは。ムドガッチャリャ…可愛いがってあげれば。ムゲネェ…可愛いそう。チッタ…少しは。コンニャクニ…柔らかに自由になる意味。シドウ…ひとたち。ハイクリマワル…慌てて無動作に動く。ニナ…貝の一種。コキー…ここに。そこじ…そこで。トウトウ…ついに。

6Ｐ　なんさま…なしろ。おらるるんで…居られますよ。じゃつちある…そのような事も。チットズツ…すこしずつ。いんげなこと…いいえとても。うっとどう…私たちは。

7Ｐ　ツグロ…丸く曲がって。ヨコタクリ…横に乱雑に。もんじゃつた…ものでした。ちーちょるき…ついているので。なっちよる…なっている。そんげ…そちらに。ソリャモウ…それはそれは。コンメー…ちいさくて。コキークル…こちらに来る。こげな…このような。ゴッソリ…すべてを。シモウタ…しまった。

8Ｐ　ピンコシャンコ…喜び飛び回る。なかめーか…いつの間にか。こんだ…こんどは。ツージ…飛んで。ほず…ほどに。もぅそれはそれは。たまにゃ…時には。おじい…おそろしい。じゃが…ですが。ふんともう…本当にもう。ヤエコチャネェ…大変な事で。ウメーナンチャネェ…おいしさこの上なしで。しけどま…台風などの。ごっそり…全部すべて。ごうそう…ごみや廃棄物など。ソリャマァ…それはとても。

9Ｐ　シャント…しっかりと。メエとし…毎年。シコ…準備。そげなしたち…そんな人たちも。ソコラソンゲ…そこら周辺の。やんがち…やがて。けんど…けれども。オサイハイラン…副食は必要ない。ドニモナラン…どうにもなりません。くれた…頂戴した。

宝の玉手箱にゃ『あらーそげな』ち　思うごたる珍しい話が　飛び出すんで。じゃき覚えちょういてなぁ。

龍舌欄物語り

６０年にいっぺん咲くけんど　花が散るとその木は生涯を　終わるとか。そん珍しい花が話題になった　それが昭和３０年夏んこと。１９５５年日本が戦争に負け　１０年ほず過げた頃。

高さ２丈７尺チョイト見じゃ　木のごたるが珍しい花は　６０年にいっぺん咲くもんじゃき　奈須虎夫が６３歳ん年ん　巡りあわせか　祖母が植えたちち聞いたが　そりーしてんまぁ　なんとオオゲナシ。ソレマジャあんまりピンと　こんじゃつたに４月ん始めかる　一昼夜になんと１尺５寸ほんずつ　そりゃまぁそん頃ぁタマガッタ　タマガッタもんじゃつた。

庭木は２間四方に広がり　龍ん舌に似た葉は　長さが８尺あまりになった。戦争に３人の子供を　護国の為に捧げた　そん子供んお墓の守りの　かたわら草花いじりを　しよったところ伸び始めたに　吃驚しちしもうた。近所んしたちも気がちーち　話題になったもんじゃき　『子供ん霊も喜んでくれよる』ち　嬉しゅなっちと当時を振り返る。

新聞掲載からはさらに　珍しい龍舌欄の物語りが　広がっち人の訪れも多ぅなり一日　平均３００人　４００人と来る人たちに自身も　有難いと思う心の喜びに　感謝の想いもまして来たよう。婦人会、青年団、学生などが　参考に見たい　勉強にさせてもらう　それぞれの想い考えが　この花の元に寄せられよった。

夜は電気照明にまでなっち　６０年に一度ち言う　巡り合わせの花に感謝し管理する　この家の人たちに限り無い　喜びを話して帰る人たちが　きっと生涯の思い出に　なったのじゃあるめーか。日ごろん管理もさることながら　心がこもった花には　何か語りかけるもんも　あったように想像もさるるが。

高さが約８Ｍあまり　クリーム色ん花じ　１Ｍあまりに剣状に伸びち　いっぺん花をつくると　木は枯れるち言わるる。がきっとどこかに種が残されたか。彼岸花科んメキシコが原産。葉は薬用繊維となっち　利用価値もあるち言う。開運の前兆ち言う諺もある。

こげな珍しい花ん苗をどこかる　それも謎じゃが祖母が　植えたちん記録がありゃ　好奇心旺盛じどこかん　店屋か植木市なんかじ　買うたんかん知れん。そん頃ん植木市ち言うと　谷ん大将軍神社があった。熊本なんかにゃ多いし　賀来の市、浜の市も。豊後３大市ん中ぇ　清正公市もあったが　ここじゃあんまり苗木ん　話しゃねぇごたる。

ひょいとすりゃ四国参りん　遍路みやげもありそう。まぁとにかく一躍有名になった　こん龍舌欄な当時ん　野津原村報にも昭和３０年８月号に　掲載されち記者が取材　写真も撮れちょるが　大きな囲いがされち　そばに寄るとアブネーキ　心くばりぅしたんじゃろう。

遠距離撮影写真は豪華に　向こう山が遥かに低う　入っちょるきそん大きさも　伺えるごたる。満開になっち枯れ始めたんを乾燥しち後に　世話になった人たちにも　記念に配ったが想いでの多い　またとねぇいい記念品になった。あれかる今年は　もう６１年余り　人間なら還暦たぁ　奇しき縁かん知れん。

ちなみに　当時ん野津原村報にゃ　８月７日開催ん大分郡体育大会ん　準備として『村民体育協会』が　結成され会長に高屋光三郎村長。副会長に渡辺半平村議、森英利青年団長が推薦された。

１０月１日に全国一斉国勢調査実施。牛の改良にはいまがチャンス。台風豪雨等災害対策…消防本部より。高血圧予防をなど。

心の絆が実ったタイムカプセル

平成１４年３年１１日に　東部小学校で卒業記念にと　タイムカプセルを納埋がされたが　そん時んカプセルは　なんと生徒とん交流しよった　佐藤昌史が勤務しちょつた　会社ん加工製品の樹脂性ん　格別ないれもんじゃつた。キラキラ輝く生徒ん姿に佐藤も『成人式にゃ　おいさんも呼んじくれーの』と　冗談話。

いろいろん行事やらにゃいつも　招待しちくるるし病気ん時わざわざ見舞いにも　そげな交流がいつも　お互いの心の中にゃ素晴らしい　花としち咲いちょつたんじゃが　間もねえ卒業式にゃ　体調ん不具合じ欠席　『純粋なあなたたちに　大きな感動をもらった。元気に夢に向かって　挑戦してほしい』ち　卒業を祝福したんじゃつた。

繊細な博学があったんじゃが　家庭ん事情じ農業を継いだ。でん挫けるこたねぇ青年としち　青年団の文化部長としち　村内ん若い人たちん心豊かな　資質の高い気骨を育てる　役割を果たし親子じ関わった　水路ん記録等ん写真を　すべて網羅する取り組みにも　情熱を燃やしよりよった。

じゃが神は無情な指針を充てた　それから２年後には帰らぬ，天国に旅立ってゆく宿命。東部がカプセルを納めた　そげなニースを聞いた同僚が　交流中ん荻小学校生徒も　『ほしいなぁ』そん声に『いいよ』と　気さくに応じて同型の　カプセルを早速調整して　プレゼントしてくれた。

そげな絆が無尽にも打ち崩れた　告別式にゃ生徒が参列して別れを惜しんで人の優しい　心に応えてサヨナラと　心の中から見送った。無常な涙はきっと　成人して社会に役立つ人間にと。

巡り合わせの人生は　２２年１月５日に　当時の水島教諭や昌史さんの　ご婦人が参加して開披して　２０歳の成人を祝い黙祷して　無事に希望のカプセルが　開かれた事ぅ報告した。今頃は　天国じ『やったのぅ　おめでとう』ち　笑顔がこぼれちょることじゃろう。

も一方ん荻のカプセルも　２４年１月９日に同僚が参加しち積雪が残った　校庭じ純朴な当時んままん　面影が残った生徒ん歓声に　見事開かれち　ハイポーズ。成人式の晴れ着がゆうあいそう。この間にゃ６年生最後ん　食事会は時間がのうじ中学卒業式にゃ参加出席、まぁ昌歴の敷いたレールに　２つん生徒約６０人が　将来ん夢を抱いち　今日も頑張っちおる。

方言説明

１１Ｐ　いっぺん…一度。チョツト…すこし。ごたるが…ようですが。もんじゃき…ですから。そりーしてん…それにしても。オオゲナシ…大人が。ソレマジャ…それまでは。ピント…直感じ。こんじゃつた…来なかった。ずつ…あまりの。タマガッタ…吃驚した。いじり…あたりさわり。ちーち…ついて。あるめーか…あるのでは。

１２Ｐ　どこかる…どこから。たちん…たちの。どこかん…どこかの。ごたる…ようです。まぁとにかく…いずれにしても。ちょるか…しているのか。

１３Ｐ　しちょつた…していた。くれーの…暗くて。やらにゃ…やらなければ。くるるし…いただける。水路ん記録…世利川井路の記録。

１４Ｐ　やったのぅ…完成して達成した。のうじ…なくて。

人の施しにゃきっと報いもあるもん　それにゃ大けな褒美もちーち　戻ってくるんが　世の習わしでんあるもん。

약속

『バナナ、牛乳、パセリの飲み物』

疲労回復やらちょつとハイカラん　飲みもん黄色に白、そり緑が効いたパセリ　さっとミックスすりゃもう　四季も問わんじコセクリ。夏どまドウイイカ。パセリ嫌いん人でん　好きになるんじゃねぇ。パセリにゃ栄養素も　多ぅ含まれちオルキ清涼財にも。

畑んくろじ青々しよるパセリが　『こげーしこっちょるに何とかせんと　種がアエチしまうで』　『じゃなぁムゲネコサレナェ』ち　はじめんうちゃー　ツキアギュ　しよったんじゃが油ベタベタ好かん…のと。コマッタコンニャクジャノゥ　じゃミキサーが　『こげなこたーどげな』

バナナが黄色い顔しち　わしゃなぁ食うと　すぐ馬力がでるき。チョイト自慢顔。隅っ子ん牛乳が　『ふんな　ウットウが加勢しゅうか』　黄色と白い色が目立った。そよ風に揺れよったパセリ　『ワシガ入るとモットいい色になるんじゃがなぁ』３つが見つめなおした　『ふんとじゃ　いい白じゃ』

『せっせのせ』　３つが入ったもんじゃき　もう待つちょれん。ザーザーち　ミキサーが機嫌ゆう　動いたもんじゃき　時のめーに　『イッチョウアガリ』に　なった。『ありゃふんといい色じゃこと』　爽やかな香りもあっち　風味もまたイイチイイキ　ナンカせりかかっち来た。

『そげーせりあわんでん　いいど』『早ぅせんと　ノウナリヤセンナ』『ショワネェキ　セクナ』　牛乳はかばしいごたるき　バナナん甘さが効く。それもガイトーでんねぇ。『いいんじゃねぇか　これぐれーが』『よかろうかなぇ』　『上等上等ホケなけりゃ一番じゃ』

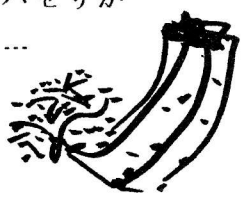
『やつぱ俺一人がよかったに』　バナナがちっとクジュ言う。『ほんなテーゲーニしちょけ』ち　牛乳もパセリも　知らんふりしちょつたらトコロ　夏ん暑さになんぼ　南国育ちでん湿気が邪魔もする。『ほらみよ　言わんこっちゃねぇ』　影じぶすぶずいいよる牛乳。

『ちっとのぅ　イトージカルジャ　今やかましいんど』　心配しち牛乳がバナナん　黒い点々を見た。黄色ん肌が羨ましかったけんど　昨日に比ぶると　アバタが大きゅなった。それがもう目に見えち多ぅなっちょる。『はいダセ　コッチヤレ　今ならまぁドウモ　ナッチョランキ　ショワネェ。

スズシイ顔じ　そん話しっゅ聞きよった　バセリが背伸びしち『何ぅアンゲコンゲ　言いあいよんのかえ』『いんにゃ　心配せんでんいい　こげこげじせゃき』　『そりゃーまぁ　早ぅせんと悪いでやっぱ』『じゃろう　じゃきのぅ』　バナナも　泣きべそ顔になっちしもぅた。

『ほんな　うっとうも　手伝うき　3人が一緒になりゃもう一番いいんじゃねぇ』『それが　いいちおもうがのぅ』『言うこつ聞いちょつたが　いいち思うがのぅ』『じゃなぁ　やっぱそげしゅうか』『それが　いいちや　みんなづり　いいんがのゃ　ほら昔かる言うじゃろう』『なんや　ありゃお前　両方いいんが頬かぶりじゃろう』『うん　それそれ　それじゃこと』

大騒ぎしよるもんじゃき　近所んしたちも　集まっち来た。どしたんな　『ありゃまぁ　バナナンこのアバタ』『ソゲー言いなんな　むげねこされ』『じゃなぁ　もう言わんきー　言うこつ聞いち　なかゆう　しちもらいよな。『まぁまあ　ムゲネコサレ』見る見るうちー　アバタが多ぅなった。バナナと牛乳とパセリが　やんがちカガーチ　ミキサージ　美味しい飲み物が……



『焼米は故郷ん味』

稲刈り前になっちもう　田んぼにゃ水ぅ入れんでん　ゆうなっち乾きん悪い田どま　乾かさにゃ稲刈りん時ぃ困る。じゃきこん頃になるとボチボチ　溝刈りぅするこちなる。そうすりゃ乾きもゆうなっち　ハマランジ済む。そりー早刈りしたんな　『焼き米にしち　故郷ん味』に　なっち何とんウメー　秋ん味覚になる。

刈り取ったぬ　コギオチーチ選別しち　釜じ煎ると　香り豊かん匂い、ヤツパ秋じゃのう　今年もユウ出来た　豊作じゃのぅ。早速精米所じ　ツクト焼米ん出来上がり。今年も都合ゆう実り夏ん暑いさかりん　世話役も無事おわったんじゃき　贅沢ち言うかん知れんが　食ぶるかのぅ。

歯のいいしゃ　そんまま跳ねち食うが　歯の悪いしはヤッパアチー湯の中つけち　チョコット塩味もいい。柔らしいもんじゃき　すぐ食わるる。独特ん香りと　舌障りに秋が満喫　やっぱいいのう焼き米ぁ。年寄りどもは　もう入れ歯でん　こん味ゃこん時だけじゃきち　モモグリながらデン　タベデエタ。

『ユウカマント』　ナェ皮肉か知れんが　歯が悪いにそげーかめるるかなぇ。ち心ん中じゆうたかは　わからんけんど　そげえ言われてんタベてーんが　人情でんあろう。孫にちっと送っちゃりゃいい。『シカトシモネエニ』ち　送り賃が勿体ねぇち　本音も出るが　それもシチョキャコス　又それ以上んもんが　送っち来る。

隣に前かけに隠しち　持っち行くと『ちゃーもぅ取ったんな今年しゃ出来はドウジャツタナ』『ソレガ気になり　苦にモなる百姓仕事でんある。が働くだけんコトジャ　むげノもある。そうこうしよるうち　宅急便も届いた。

嫁ん里に珍しかろうち送った。でーぶん歯が弱ったもんじゃき チット　内緒じ『お粥にしち食べたんと』　とろがそん　ウメーノナンノ　仄かな秋ん香りと味　『まさに天下一品』ち　おほめん添え書きまじ　あっち嬉しいやら　コマッタゴタル　顔色じ心が揺れ動いたごたる。

本当ん食べ方は　知らんでん　機転効かせた　うまい料理方法は　想いもよらん　美味しい『故郷ん味』に　なったごたる。米は国ん宝物じあり　生活経済ん根幹じゃが　時代が変わると　利用んシカタモ　変わっちくるき　不思議でんあるが　それもまたいいんじゃねぇ。

米が作らんでん　減反何かが顔でーち　肩身ん狭ぇ想いん米もこげな　英知とアイデアが　飛び出たとすりや　これかる先にゃ又　ほらなぁ　『米不足』も　出るんじゃねぇ。米農家がもちった　米造りだけじ　イノチキが　できたんならなぇ。過疎ちゃ何かえち　死語になるなら　なおいいがなぁ。

『よう早う食わんと　柔らしゅなっち　しまうど』『じゃつたなぁ　ありゃーこりゃー　うめー』　歯のいいしでん　柔らけえのん　いいじゃねぇな』『やんな若ぇき　何かほかんこつ　想いでーたの』『わかったな』『解れーとん　だてに年ぁ取らんど』イサギュ　カキコミヨルンを　見ると　取られそうになったんか『ふんと　うめーわ』

『茶碗な　おいちょけや』『皿まじネブッタチ　聞いた事があったがなえ』　トワズンジョウ言うもんじゃき　仕事ぅするんが　忘れられごたる。『今日は早ぇが　地獄入りゅするか』『いいのぅ　今年しゃタマリも　いいごたるきなぇ』『お前かんが一番いいど　一升買えゃ』『ありゅみよ　矛先がこっち』『若ぇんじゃろう』『わかったきもぅ』　大笑い。

『食…混ぜご飯あれこれ』

混ぜご飯にゃ美しさやら　四季ん感触やら　味ん楽しさやら　それに　経済にも響くもんが　含まれちょりもする。じゃき時にゃそんドレカガ　狙われちょるごたる　組合せになるもんじ古くかるん　生活伝承が具合ゆう　覗かせちもくるるごたる。手つ取りばえーんもじゃが　鮮度も約束さるるき　でーじなもんでんある。

四季それぞれん風味　香辛　感触　何かが凝縮されたような人ん　心ばりもうまい具合に　盛り込まれた人間の　情愛が憎いほず醸し出しちもくれよる。

せり、三ッ葉、にら、たかな、しそ、たけのこ、ワラビ、ぜんまい、ゴボー、ニンジン、クチナシ、どん一つ取ってん　具に使えるし　そん横顔にゃ独特ん　香りが味が匂いが　内蔵しちょるき　好まれちも来た。

お接待に　春は新鮮な　ワラビ、タケノコが並ぶと　背中ん子まじ手をサイデーチ　『二人分じゃな』ち　気くばりしちくるる風景。夏は仏とん関わりに　身近さを表すごたる　ヤセウマ、ダンゴ、が　きなこん香りに　暑さでん食欲そそらせちくくる。涼しさも取り入れち　くるるそうな。

取り合わせじ　２つ３つん組合せでん　いけるし隠し味でんヤキタツモン。よもぎ餅になると　ちっと上等上品になるが『混ぜご飯』じゃち　言うてん餅も　仲間ぇ入れちゃらんとムゲネェコチナル。生活ん知恵が　食文化ん　お手並みがこげな形じ　季節ぅでーじに　食の安全と節約とん　交差によっち具合ゆう継承　されたもんじゃち　なんかほほえましい限り。栄養価値もあるちゅうき　それもいいことじゃなぁ。

△△△　方言説明　△△△

１５Ｐ　ドウイイカ…とてもよい。オレキ…いますから。くろ…隅っこ。こげー…こんな。アエチ…落ちて。ツキアギュ…フライ。ドゲナ…どうです。チョイト…少し。ウットウ…私。わし…自分。ふんと…ほんと。イイチ…よいと。イイキ…よいです。ナンカ…などが。ノウナリャセンキ…無くなりはしないから。シヨウネーキ…しかたないから。セクナ…急がなくても。これぐれーが…このくらいが。

１６Ｐ　クジュー愚痴を。テーゲー…たいがい。イトージカル…痛みだして。ハイ…早く。コッチヤレ…こちらに出して。ドウモナッチョラン…どんなにもなってないから。アンゲコンゲ…あちらやこちらに。じゃろう々でしょう。じゃき…ですから。うっとうも…私も。やっぱ…やはり。そげしゅうか…そんなにしましょう。しちもらいよ…してもらっては。

１７Ｐ　ゆうなっち…よくなって。溝刈り…水のたまった溝を刈る。ハマランジ…沈み込まないから。ウメー…美味しい。コギオチータ…こいで雑穀した。ヤッパ…やはり。ユウ…ヨク。つくと…精米すると。跳ねち…口にぽいと食べる。アチーユ…沸きたての湯。チョコット…すこし。ももぐり…揉んで。ユウカマント…よくかんで。そげー食べてーんか…そんなに食べたいの。シカトシモネェ…大したこともないのに。シチョキャコス…しておけばこそ。そうこう…そうしている間に。

１８Ｐ　でーぶん…大変な。死語…まったく消えなくなる。じゃったなぁ…でしたねぇ。イサギー…簡潔であっさり。トワズンジョウ…冗談ばかり。一升…昔の相場みやげ。アリュミヨ…ほら観てごらん。タマリガ…収穫量。

１９Ｐ　ゴタル…ようです。二人分…背の子供の分も。ちゅうき…そのようですから。くるる…くれる。

別冊 物語

権現にあった白山権現さまと　平野にあった祇園神社ん　お旅所《仮のお宮》が　当時ん古町にあった。古町⇨野津原町ん事じ江戸期間に　新町ができちかるは　古くかるある町じゃき　古町ち呼ぶごつなったごたる。今ん野津原神社周辺に　２つんお宮んお旅所があっち　定期的にここに　お出ましになり　祭りん市があっち　はじめは物物交換なんかが　北は庄内　挟間かる　南は戸次　判田　大野かる　人々が集まったごたる。

当時ん幹線ルートは山を越えち　谷村　賀来、別府に。南は大野、判田、戸次、それも入蔵経由が多かったごたる。豊後ん３大市ち言うと　浜の市、賀来の市、清正公市、ち言うぐれーじ清正公まつりにゃ　郡役所に届をでーち　『ご迷惑はかけませんから』と　許可をもらいよったそうな。そん代わり　郡役所かるも祭典の日にゃ　伺候が来て『ご祝儀』も　あったよう。

現在の神門は　江戸時代当時の『お陣屋⇨お茶屋』の　裏門じ役員門《薬院門か》を　神社創建の際に　移築したち言う。柱は欅４本柱じかっては　瓦にゃ紋が入っちょつたが　長い間の傷みじ今は　その面影はねえが　紋の作りは普通とは　異なっちょるごたる。旧野津原村ん郷土神社として　『郷社野津原神社』で明治４年《１８７１年》から　氏神様として　崇められちょる。

伊能忠敬の郷土測量じ　この周辺の基礎そくりょう。幕末時代にゃ風雲急を告げる頃　勝海舟と坂本竜馬が　密命じ強行横断。夢とロマンじゃ源義経が　落ち延びる中継地じつたが。まっと昔にゃ大和武尊が日向かる　引き上げに御座岳かる　『こん里は人が優しく暖かな桃源郷』ち　一夜の夢も結んだそうな。

夢は多いがよい　そして実現するなら尚よいが。そんな新しい夢を描いて　明日は今日より　しあわせな　ふるさとに　皆んなじ守り育てち　行きたいもんです。ご自愛ください。

古い野津原音頭が７番までで　あとが不明ですので　少し淋しいとの意見が多くて《本当は１０番まであったと思う》合併前の　今市地区や大字上詰地区の　歌詞も入れて合計を１４番までに　なりました。素人作詞ですので今後は　これに類似したものが　出来たらまた楽しいと思います。曲は当時のままの『紅屋の娘⇨中山普平作曲、昭和４年》です。

1　おばねの街道　石だたみ　ト　サノ　石だたみ
　殿様行列　きらびやか　ト　サイサイ　きらびやか。

2　あの娘《コ》年頃　今市原に　ト　サノ　今市原に
　牛を飼うのも　いじらしい　ト　サイサイ　いじらしい。

3　岩をぐって　三助井路の　ト　サノ　三助井路の
　水も豊かな　黄金波　ト　サイサイ　黄金波。

4　四辻峠にゃ　茜雲　ト　サノ　茜雲
　荷尾杵　獅子舞い　白熊練り　ト　サイサイ　白熊練り。

5　在所帰りか　貝殻岳の　ト　サノ　貝殻岳に
　響く神楽に　子がはしゃぐ　ト　サイサイ　子がはしゃぐ。

6　野津原よいとこ　櫓の上で　ト　サノ　櫓の上で
　嬉し　十五夜　踊りの輪　ト　サイサイ　踊りの輪。

7　笑顔が揃えば　夢がある　ト　サノ　夢がある
　明日は今日より　幸せに　ト　サイサイ　幸せに。

２４，４，吉日

高齢者が多ぅなっち　福祉バスも巡回しよった。バス利用が目的じゃがそれだけじゃ　無理もあるもんじゃき　へき地方面じゃタクシーとバスん連携じ　乗り換えん不便なあったが　バス路線の分は支所かる　乗りの都合いいバス停かるわ　タクシーがチャント待っちくれちょる。

デイサービスんしたちは　直接家まじ迎えが来ちくるる。そげなしたちが施設じ歌うんが　『のつはる音頭』じゃつた。戦中ん昭和初期にはやった　『野津原音頭』ん　後継音頭ち言うようなもんじ　ドシテン想いだせんもんじゃき　ムゲネコサレになっち　7つに足したんが　こきある主に今市地区と　上詰地区ん分が出来た。

こんだ三輪先生がち　名前んはいったんが出来た。らこんだ『しあわせん丘』も　入ったがイイデち　こちなっち又こんだ新しい　そんかわり『のつはる音頭』ち　なったごたる。

楽しい『のつはる』音頭　　《２０１２》

1　あなたに　逢えた　しあわせの丘は　サノ　しあわせの丘は
唄の絆が　あったから　ト　サイサイ　あったから。

2　あちらから　こつちから　来て想う　サノ　来て想う
出で湯に　若さも　保たれる　ト　サイサイ　保たれる。

3　寄り添う　大分市に　なってから　サノ　なってから
道《道路》も　水《水道》まじ　あら嬉し　ト　サイサイ
あら嬉し。

4　過ぎた　苦労は　あったけど　サノ　あったけど
時の刻みが　糧となる　ト　サイサイ　糧となる。

5　話しが　はずめば　気も豊か　サノ　気も豊か
たった一度の　道《運命》じゃもの　トサイサイ
道《運命》じゃもの。

6　三輪ノブさーんの　唄車　サノ　唄車
宝いっぱい　ほがらかに　ト　サイサイ　ほがらかに。

7　笑顔が　揃えば　夢がある　サノ　夢がある
明日は　今日より　幸せに　ト　サイサイ　しあわせに。

こげなふうじ『のつはる音頭』に　なっち昔んうら若い美人が　唄うそん唄にゃヤッパ　情緒があっち野良仕事ん　後かる泥じキサノウナッタ　手足しゅ洗うとコリャマタ　美しさがイチダント　輝くもんじゃき『今頃かるドキ行くんな』ち　近所ん若えしがセワシガル。

『ドキモイカンデ』　そんくれ言わんと　ヒョイトしち近所んしに聞こえたら　オオゴツ作りたつる。ところじ　こん唄ん節はすべて『紅屋の娘』⇨昭和４年に　レコードは売られたがそげー　買うしゃまぁオランジャツタ。けんどすぐ節は覚ゆるき　唄も時の間に覚ゆる。

寿年令になったしたちも　昔取った杵つかじ　覚えは早えもんじ　時の間に覚えち唄いよる。ただ歌詞を覚えるこちなるとヤッパ　暇がいるごたる。そげんこたーどうでん　とにかく心が豊かになりゃ　あたー時間が勝負。ぞげ慌てた所じ　どうもならんきなぇ。

過去ん苦労を糧にしちょるき　今日も健康じ過ごす　それがなによりん幸せち言うもん。元気に唄いましょうな　入れ歯が飛びでらんごつな。三輪先生ん　唄車に乗せち　大声あぐりゃそれこす　元気な元じゃき　健康がいちばんじゃきな。発声するんも元気な証で。

何べんも詩を書き換えちくれた　調査会んしたちも思わん勉強が出来たち　転げ回るごつ喜びよったわな。唄は世に連れ、世は唄に連れられち　それが平和ん証じゃが　こん頃ぁチット雲行きもおやしいがモそれもまぁ　刺激なっちいいんかん。心が豊かじありゃもう　最高ち思わにゃなえ　ふんと。聞こえち来たごたるヤッパ　故郷ん唄ちゅうな　いつ聞いてんいいもんじゃなぇ　やぐら太鼓に合わすりゃ　尚よかろうごたる。

方言説明

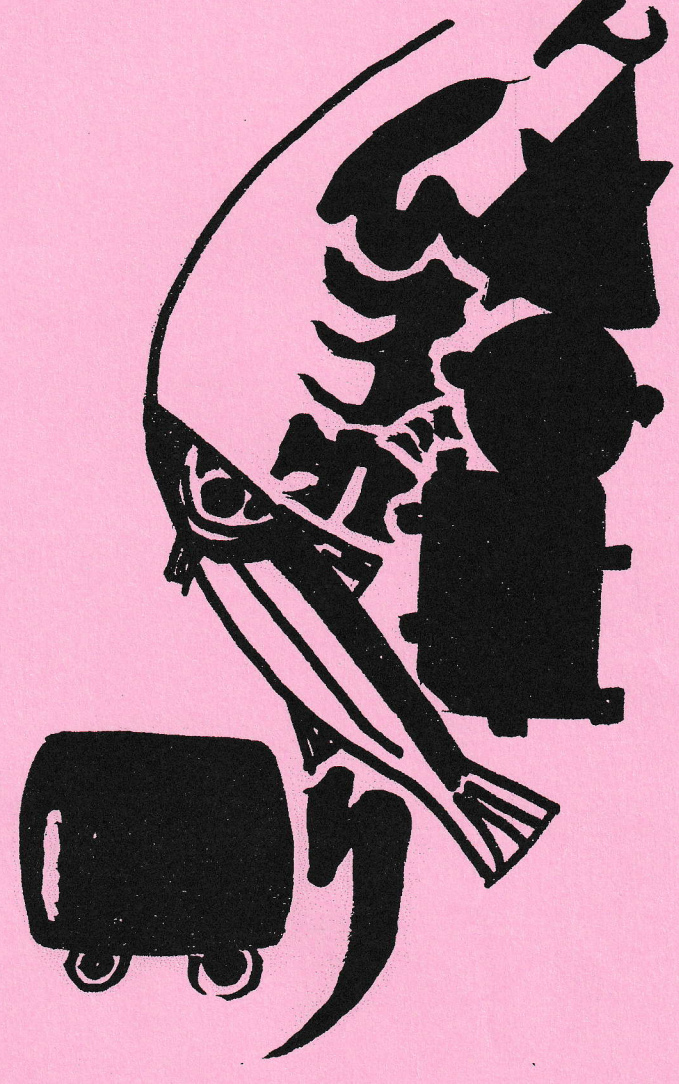
２３Ｐ　ドシテン…どうしても。ムゲネコサレ…可愛いそうで。こきある…ここにあります。こんだ…今度は。イイデーよいですよ。こちなった…事になった。

２４Ｐ　なったごたる…なったようです。こっちから…こちらから。あらうれし…とても嬉しい。三輪ノブさん…かって教職じ後婦人会活動など　社会活動家で作詞もでがけた。

２５Ｐ　こげなふうに…このような事に。ヤツパ…やはり。キサノーナッタ…汚くなって。コリヤマタ…これはこれは大変。ドキ…どこに。ドキモイカンデ…どこにも行きませんよ。ヒョイト…もしかして突然に。オランジャツタ…いませんでした。けんど…けれど。寿年令…高齢者に。ヤッパ…やはり。そげんこたー…そのような事は。どうぜん…どうでも。あたー…後は。そげ…そのように。どうもならん…どうにもなりませんので。なえ…でしょう。しちょるき…していますから。でらんごつ…出ないように。あぐりゃ…さしあげたなら。じゃき…ですから。転げ回るごつ…嬉しさのあまりに跳びはね騒ぎ回り。おやしいがモ…おかしいよぅじゃない。ふんと…本当に。もんじゃき…ものですからら。

出会う機会がある。デイザービス通いの　人たちでも同じ年令や環境など過去の　懐かしい時代があった。そんな人たちの追憶をそっと想いださせてくれる　唄は無性に元気を貰うような　毎日になってそこに心ときめく。唄があったから勇気が　元気が湧き出たような。気持ちがこんな連鎖反応で　つぎつぎと何かを求める。心の潤いの時間だったのでしょう。無心に唄った記憶を追求すると…そこには仄かな夢やロマンも　あって久しぶりに若かえる　チャンスも貰ったように　少女らしい姿態に　恥じらいもない幸せ人生。よかったですね　いつまでも幸せを抱いて……

方言單語



せ　セチトキャ…情けない時には、切ない時には、悲しい時には。
セチデンコライ……情けなくても我慢、切ない時程我慢して。
セチハタラキ……区切りの時に働く、ゆつくりした時に働く。
セチカリャハリコメ…悔しい時は頑張れ、悔しければ頑張れ。
セチボジカヤス……やかましく叱りつける、煩く叱りつける。
セチナギー……情けなく切ない、言えないほどの悲しさ。
セックバタキ……休み頃に働く、人並みにせず働く変わり者。
セッテンヤッテン……どうにもならない変わり者、異国者。
セッチコスシンボウ…切ないなら我慢辛抱、苦労は我慢から。
セツネ……切なく辛い、情けないけれど我慢のしどころ。

セッチウレタ……競り落としたので売れた、互いに競い逢う。
セツデン……情けなくとも、切ない時でも、苦労していても。
セツウジ……切なく辛いが、情けなく大変だが、苦労しても。
セツタニ……競ったのに、競争したものの、我慢のしどころ。
セッキ……区切りの季節、変わり目の仕事の仕分け上手に。
セット……忙しい季節、繁忙期間、際どい区分けの英知。
セッチョキャ……競っておけばいいことも、曳くときが楽。
セヅートビアルク……背戸を飛んで歩くよう、動きの早い。
セデチョキャ……煎じておけば、煎じた薬は妙薬に。
セデクウジ……無理強いしては損する、無理強いは用心を。

ゼデチャリャ……煎じてあげたら、難しい煎じ薬療法。
セデンデン…煎じなくても、そのままでも使える、煎じ無用。
セデタキイラン……煎じたから不要、間にあっているから。
セデリャトク……煎じてあればすぐ間に合う、準備周到。
セデテンデル……煎じた後でもまだ使える、無駄にしない。
セデダサルリャ……煎じて絞られれば、そこまでやれば。
セドカル……背戸からの珍客、勝手知った人たちは、勝手道。
セドカジキオツキ……瀬戸の風に用心を、背戸から火事用心。
セドニャカガワク……背戸の掃除は確実に、背戸溜り不衛生。

せ　セドコスカクルル…背戸は隠れ場所、背戸ん使い用、隠れた。
セドカジャマンリョウ……背戸の風ん涼味、夏のごちそう。
セドコスアソベル……背戸は遊び場、背戸なら怒られない。
セドガキ……背戸で遊べば心配無用、勝手知った場所なら。
セドカジュ……背戸の風には満両ん気持ち、通り抜けの風。
セナリー…してすぐ、したとおもっていたら、してよかった。
セナコ……背中を、背中に問題が、背中が不安になって。
セナミャウツクシイ……背の稜線は美しい、背の並みが良否。
セナリャコ……したからこそ、してよかったと、後悔なくて。
セナコケーチ……背中をかいてくれない、痒いので背中を。

セナココスル……背中をこすって垢を落とす、汗を流して。
セナンコナカスナ…背中の子供を泣かせないよう、子守上手。
セナリャシゴツ……仕事をしてこそ、してから評価もされる。
セナク……背中を使う、背中が広くて安心、背中が懐かしい。
セナコカセ……背中を貸りて暖まる、背中も道具物。
セナキ……背中に来なさい、背中を上手に使って、背中芸者。
セナカンコエマツ…背中に肥松が難かし者、言葉に気をつけ。
セナケトマレ……背中におんぶして、背中が一番安心。
セニカエル……背中に腹は変えられない、出来ない相談も。
セニセンジ…背中にしなくて、背中以外の場所に、背より腹。

セニワタリミチ……背中に渡る道もある、背中を越える方法。
ゼニャマワッチクル……銭は天下の回り物、いつかきっと。
セニヤナラン……しなくてはならない、することが大事。
ゼニダケガ……銭だけが世の中じゃない、銭より大事な物も。
ゼニャメノカタキ……銭は目の敵のようでは、銭も信用も。
ゼニャツカイヨー……銭は使いようで、金と頭は使い方で。
ゼニドマモラエ…銭を貰えば使い道は多い、心が大切じゃき。
ゼニガカタキド……銭が敵だけじゃない、銭が悪さもする。
セニャ……しなくては、する事で大きな宝も、する大切さ。

せ　セネバッチ……そねばりいらいらする、気分が優れないよう。
セノナコワタレ……浅瀬を選んで渡る、流されないように。
セノウユワタレ……浅瀬の上を選んで、用心して瀬渡りを。
セノビャゲンキ……背伸びするのは元気な証拠、全身運動を。
セノリャイイモン……背中に上って見渡す、背に馬乗りに。
セノコリャアンマ…背中の懲りは針灸マッサージ、早め治療。
セノコリャヤイト……背中の痛みは灸が、早めの治療が。
セノベー……背伸びして深呼吸、背を伸ばして全身運動。
セバギル……邪魔して悪あがき、人を競りのけて世話を。
セバメチ……狭くして、狭くする事で、狭くなれば有利にも。

セバケリャヒロギ…狭いようなら広めて、狭くて不自由なら。
セハバガヤキタツ…背中の狭い人なら通れる、するり抜ける。
セバマッタド……狭くなったから、狭いから大丈夫。
セバメチョケ……狭くしておけば、狭くったのでせ至便に。
セバマリャ……狭くなれば利用価値が、狭いからゆっくりと。
セバマッチ……狭くなって整理が出来た、せまいと簡素。
セバムリャ……狭くすれば得もある、せまいと整理が簡単。
セバクリオウチ…狭いところで賑やかに、狭い場所の賑わい。
セビノンコマル…狭くても困る、狭いから困難、狭さに苦労。
セビナコライ……狭いのは我慢して、せまいから整理する。

セビニデン……狭いでもよいの、狭いから我慢出来る。
セビゴタル……狭いようだから、狭いから整理したよ。
セビトコリ……狭い場所でも、狭いなりにうまく使う。
セブリャ……無理を言うと、無理やりにほしがるから。
セブッテン……無理強いしても、欲しがってもないから。
セブリカエーチ……欲しがるもので、欲も入った欲しがり。
セブリャコス……欲しがればこそ、欲しいなら早めに。
セブルノン……欲しがるのも中身が問題、あつかましい。
セブルンカ……無理じいするんか、欲しがり欲が強い。

せ　セブルクセ……欲しがる癖がある、何でも欲しがる欲強い。
セブリジョウズ……欲しがるのが上手に、調子よく欲しがる。
セブッタンカ……うまい具合に欲しがり上手、無理強いする。
セベナコライー……狭いのは我慢して、狭いから承知で。
セベートン……狭いのはこの上なし、狭い自慢になるから。
セベンカ……狭いのですか、この上なく狭いと思うよ。
セベンジヤガ……狭いのですが、狭すぎる程に。
セベナリ……狭いなりにも、せまいけれど整理がきくから。
セベムリヤ……狭めると使い勝手がいい、狭いとよいかも。
セベデンツカエ……狭いなりに使い勝手が、狭いから徳用。

セベカリヤ……狭いならそれなりに、狭いから使いやすい。
セベーブンナ……狭い分は生かされるから、狭いのも徳用。
セボカリヤ……狭いから使いこなす、狭いから徳用に。
セボデン……狭くてもうまく使いこなすと、狭いから有利。
セボジ……狭いけれど徳用に使える、狭いだけ有利。
セボージ…狭いだけに有意義に使える、狭いから整理が効く。
セボージャイイ……せまいからよい点も、せまいから簡単。
ゼボケンドキチヨル……狭いと文句言ったが来ている。
セボメチヤル……狭くしてあるので便利、狭さが有利に。
セボムル……狭くすれば至便に使える、狭くして有利に。

セマギツチ……無理やりに世話をしたがる、押し退けてまで。
セマクロシイ……狭くて雑多な住まい、せまいので整理が。
セマギル……無理やりに世話をしたがる、押し退けてまで。
セマカリヤ……狭いのなら工夫して、有意義に生かす至便性。
セマチナオシ……狭い土地を交換分合して、畦を取り除ける。
セマスグリヤ……狭くて困難なら増築も、広める工夫も。
セマグルウツチ……狭すぎて気の毒だが、狭く恐縮です。
セミーチユウ…寒いと言うけれど、閉めなさい、攻めての手。
セミータイワン…閉めなさいとは言わないが、攻めて奥の手。

せ　セムリャコス……攻めたからこそ、攻撃したために、強引に。
セムンノカ……攻めますか、閉めますか、閉めてもどうか。
セムンナリャ……閉めるのなら、攻撃しても、強引がどうか。
セムルソベ…攻めていると、閉めていたが、閉めてはだめか。
セムシャイイド…魚取りのえさに、えさはたくさんあるから。
セメアゲチ……攻めて追い詰めて、強引に攻めたが。
セメチョケ…閉めておけば、攻めたのが効果、強引はどうか。
セメチャラン……閉めてはいない、攻めてはまずい、無理は。
セメラレチ……攻められて、閉められた、攻撃されて。
セメチョキャ……攻めておけば、攻撃が効果、閉めておけば。

セメテンムリ……攻めたとしても、攻撃効果は少ない。、
セメクージ……攻めて入ってくる、押し込んでしまう。
セメマクッチ…攻撃したものの、攻めても効果は、閉めても。
セメタテチョケ……攻撃して追いこむ、攻めて追い払う。
セメンド……攻めないから、攻撃は無駄、閉めないから。
セモウツカエ……狭く利用する方法、狭く上手に利用。
セモタリャ……背をもたせる、楽な姿勢にもなるが。
セモナリャ……狭くなれば、狭い利用方法、うまく使う。
セモカリャ…狭いなりに、うまく使いこなす、整頓が出来る。
セモデン……狭くても使い方で、せまい上手な利用方法。

セモクロウッチ……狭いので窮屈、狭い部屋に大人数が。
セモイケ……狭く上手に動く方法、忍びの戦法、使い勝手。
セモヤレ……狭く上手に動く特技、広いのに狭く使う工夫。
セヤンヤクル……世話が大変で苦労する、面倒見が大変。
セヤマジヤ……世話までは出来ない、世話は大変だから。
セヨスリヤ……世話はしても儲けには、世話は損の始まり。
セヨサシイ……世話をさせて任せて、世話過ぎに任せて。
セヨシヨ……世話をしておけば、世話のお返しもある。
セヨシチミヨ……世話をして大変さ、世話の巧妙はなかなか。

70

せ　セヨシタバカシ……世話したばっかりじ、世話だけして。
セワシメー…世話はしない事に、世話は苦手で、世話苦痛。
セワシクャエータ…世話するのは飽いた、世話はもう大変。
セワシテン……世話をしても、世話の後始末も大変。、
セワスリヤ……世話したばかりに、世話の後が大変で。
セワシチコス…世話してこそ苦労もわかる、世話の苦労が。
セワデンイイキ……世話になっても、世話が出来れば。
セワガツチヨケ……世話はしておけば、世話になるもの。
セワンワヤク……世話が朝飯前、世話の上手な人間も。
セワクノタネ……世話は苦労が伴う、忙しい苦痛が残る。

センジヤツタカ……しなかったので、すまないので、未決。
センチンソダチ……慌てて戸が開いたまま、あわてんぼう。
センスラ…冗談好みの人間、調子者で信用が、充てならぬ。
センギ……捜し回る、捜したものの、捜し当てない、審議。
センナムゲネエ…しないのは可愛いそう、なんとか満たせ。
センドリヤ……男性の自慰、適齢になると自然摂理。
センプリヤキク……漢方薬の効果は大きい、常備薬に。
センギシヨル……捜しているので、捜し回って、調査中。
センタクイトー……洗濯に使う板、生活用具でもあった。
センドル……男性適齢になると自慰行為、人間成長の摂理。

センズリ……男性独特な摂理、自然的な自慰行為。
センゴツ……しないように、使用しない、使わない、中止。
センニモ…以前にも、よくあった過去、前にもよくあった。
センデンシタチ……しなくてもしたと誤解、罪をかぶせる。
センノカ……しないのですか、しなくてよいの、利用せず。
セランゴツシヨ……押しあわないよう、危険です押さない。
セライゴハ……養子が入ると途端に子どもが生まれる例が。
セラルリヤ……押されたら、無理強いされたなら、推薦で。
セランジヨケ……押さないように、無理押ししない。

せ　セラレテン…せられたとしても、せられたのなら、押された。。
セラレンゴタリャ……押されないようなら、押されないから。
セラニャ…押さなければ、押さないようなら、押してほしい。
セランジコス……押すないからこそ、押さないのであれば。
セリクリャ……押しまくるなら、乱暴に押すのなら。
セリクウジ……押し込んで、無理にセリこんで。
セリデーチ……せりだしたので。無理に押し出した。
セリデータ……セリ出して。押し出してしまった。
セリクウダ……無理にセリ込んできた、せりこんで。
セリモウチ……せりあいながら、無理にせりあうので。

セルチュウテン……せりあうと言うても、せり合うのも。
セルソベ……せり合う側で、せり合っている側での。
セルリャ……されるのなら、されるのも、された場合は。
セルルカ……されますか、出来ますなら、してくれますか。
セルンナ……されるようですか、できるようなら、出来る。
セルンカ…押しますか、押してあげましょう、押すのですか。
セルルモンガ……押されるものですか、押されますか。
セルキカセ……押すのでかして、押しますから貸して。
セル……押す、押しましょう、押してあげます、押し出す。
セレセレ……ほぼ同じ、一緒くらいかな、平均くらいの。

セレンゴタリャ……押せないようなら、惜しいけれど無理。
セレタナイイガ……押したのはよいが、やっと押したものの。
セレンクシ……押せない、競られないのに、競るのは無理。
セレテン……競られても、押されても、押しちとしても。
セレタンカ……押したのですか、競りはどうですか。
セレチョリャ…競られていれば、押しておけば、押せたなら。
セロウドチ…押したいと思い、押せると思うが、押したいが。
セロモンナラ…押すのなら、押したとしても、押すならもう。
セロウセロウ……押して押して、競ってみたら、押せ押せ。

42

せ　セロモンナ……するものなら、するのであっても、しても。
　　センバ…脱穀する農具、たくさんを束ねる、多くを早くする。
　　センデン……しなくても、しなくてよいから、やめなさい。
　　センチン…便所、トイレ、簡易排便場所、主に家の外にある。
　　センガンシンギョウ……大勢でお経を捧げる、集団読経。

そ　ソーデ……そうですよ、そうですから、その通りです。
　　ソイナリャ……それならば、そうであるのなら、そのようで。
　　ソトン……外の、外にある物、外においた、外で遊んで。
　　ソイカリャ……それからは、それから後は、それならば。
　　ソイカクリャ……添いかけていれば、守っているのなら。
　　ソイジョケ……そぎとって、削り取って、削って細くすれば。
　　ソイジャロウ……削って細くする、そいで細くすれば。
　　ソイチミヨ……それからみれば、そのように見れば。
　　ソイジョク…そぎ落とす、そいでおけば、削って細くすれば。、
　　ソイジカル……それでから、それであるならば、それから。

　　ソイデン……それでも、それでなくても、それであっても。
　　ソイチカル……それですから、それであるのに、そしてから。
　　ソイチョラニャ……そうしておかないと、そうしないと。
　　ソウラモウ……それはもう、それはそれはもう、とても大変。
　　ソウヤ……そうですよ、そうですか、そのようですよ。。
　　ソウモユー……そんなにも言うが、さいとも言いますが。
　　ソウマジャ…そのようまでは、そんなにまでは、それまでは。
　　ソウトン…そうとも言う、そのようですよ、そんなに言うが。
　　ソウデン……そのようでも、そうであっても、そんかも。
　　ソウクリャ…そうとなれば、そのように言うなら、そうなら。

　　ソウチャ…そうですとも、そうとも思うが、そうでしょうよ。
　　ソウグレカ……そのようですよ、そのように思うが。
　　ソウカンシレン……そうかも知れませんが、そうとも言うが。

そ　ソウソウ……そうですとも、そのようです、全くそうです。
ゾウクル……騒がしくする、いたずらをする、冗談まじりの。
ソウジャロ……そうでしょう、そのようですよ、もっともな。
ソウグレーカ……そのようですとも、全くそり通りで。
ソウデンイイ……そうでもよいです、そのようで、よいです。
ソウモネエ…そうでもないよう、それは違うのでは、無理か。
ソウデンイカニャ……それでも行かないと、行くのがよい。
ゾーヨ……生活経費、やりくりが大事じ、年末ぁせわしい。
ソエノ…添えたはかりで、添えて間もない、そえてよかった。
ソエン……添えないから、そえるのは無理かも、無理せずに。

ソエテン……添えても、そえたとて、そえないほうが。
ソエギシチ……添えたから大丈夫、添えてよかったよう。
ソエニイク…添えに行きます、そえておけば、添えるために。
ソエタンカ…そえたのですか、添えましたか、そえたらよい。
ソエチョキャ……添えておけば、そえたなら、添えておけば。
ソエチャリャ…添えてあげたら、そえてあげる、添えて待つ。
ソエグチヤ…口は出さないが、ちょつと口添え、無理は禁物。
ソエラレンド……添えられないから、添えても無理なよう。
ソオモユー…そんなにも言え、そんなに言うたら、らしいよ。
ソウドシイ…うるさい状態、騒がしいので、静かに願いたい。

ソウシキヤ…死去の慌て、葬式は、告別式は、葬儀の日程は。
ソウソウ……早々と、火急に駆けつけて、さすがに早い。
ソウジヤロ……そうでしょう、そうと思います、たしかに。
ソウカ……そうですか、そうでしょうね、承知しました。
ソウチヤ…そうですとも、そう思います、そうですよきっと。
ソウグレカ…そうですとも、そのように思う、それが正しい。
ソオトン……そおですよ、そのようですとも、たしかにです。
ソオナ……そうですか、そうでしょうね、なるほど解ります。
ソオオムーデ……そのように思う、たしかにそうでしょう。

そ　ソオラキタ……見なさい来ましたよ、待っていたように来る。
ソウシチョキャ……そのようにしておけば、そして待てば。
ソウユウテン……そのように言っても、言うて見ても。
ソウカンシレン……そうかも知れないが、多分無理と思うが。
ソカイイキ……そこはよいですから、そこは大丈夫です。
ソカコマル……そこは困りますが、邪魔になるのが困る。
ソカワリー……そこはいけませんよ、そこは駄目ですよ。
ソカシラン……そこの事は知らないが、全く関係ないから。
ソカシタド……そこは済ませましたよ、そこは終わって。
ソカヌリー……底のほうは温度低い、そこは温かくない。

ソカ……そこは、底は、その方は、そちらの方は、その辺は。
ソガンカ……そいで、削って、削ることで細くなる。
ソカホル……そこは掘るので、そちらは掘る予定で。
ソキニヤ……そこには、そちらには、そちらの場所には。
ソキマジシチ……そんなにしてまで、そんなに世話しても。
ソキンシ……側の人たち、側にいる人たち、側で見ている人。
ソキスリャワリ……そこにしては悪い、そこは困るので。
ソキコス…そこにこそ作るが、適地でよかった、決めた場所。
ソキデン……そこにでもして、そこが一番良さそうで。
ソキー……そこに、底に、底にも適当な場所が、指定席。

ソギトレ……そいで取る、削って細くする、削れば安心する。
ソギオトセ……削って細く仕上げる、細くすれば上品。
ゾクゾクスル…興奮して、異常な状態に、予想以上の出来事。
ソクラソンゲ……そこいらの、周り周辺の、近所近辺。
ソクツブセ……そこを埋めて、底を潰して、その辺を閉める。
ソクユウシナ……そこを修復して、その辺の修理を。
ソクミタカ……そこを見ましたか、底を点検した、確認を。
ソグクレナラ……削るぐらいなら、そぎ落とすのなら。
ソグンナラ…削り落とすのなら、そぎ落とすなら、滑らかに。

そ　ソーベクソウロー…でたらめに、勝手気ままに、信用ならん。
ソージャキ……そうですから、そうと思うが、そうでしたか。
ソーンゴタル……そのようで、そのように聞きました。
ソートン…そうですとも、そのように思います、でしょうね。
ソージャロ……そうでしょう、そうと聞きました、たぶんね。
ソーカンシレン……そうかも知れません、そのように思って。
ソージコス…それでよかった、その方がよいと思う、それで。
ソーユウタモンノ……そんな事を言っても、それで果たして。
ソーコシヨルト……そうしている間に、やがて結果も出る。
ソーデンセント……そのようにしないと、そうしておけば。

ソーデ……そのようですよ、そうと思っていた、それがよい。
ソージャツタ…そのようでした、それでよいのでは、解った。
ソーグレカ……その通りで、それがよいと思う、解りました。
ソーソー……その通りですから、解ったようで、やっと解決。
ソーシチョコ……そうしておきましょう、そのようにして。
ソーナラ……そのようなら、そうであれば、そうでしたか。
ソーコウシチ…やがて結果も、間もなく解る、やっと解った。
ソーチャ……そうですとも、それでこそ、それがよいよう。
ソーカチ……そう言うても、それでよいのですか、なにとも。
ソーユーナラ……そんなに言うなら、それでよいのですか。

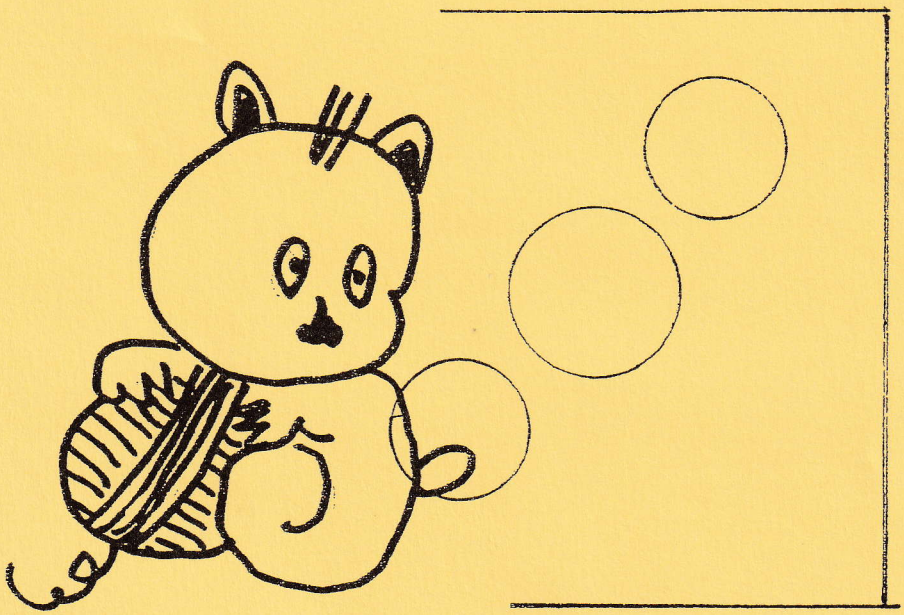
ソゲマジ……そんなに言うのなら、それでよければ。
ソゲンコツ…そんなことが、無理ではないの、不安なんだが。
ソゲメー…そげないのでは、そげますか、そぐのは無理かも。
ソゲマジャ……そんなにまでは、そんな無理は、卑怯では。
ソゲイワンデン……そう言わなくても、無理は言わないが。
ソゲンコター……そのような事は、それは無理では、違うが。
ソゲタンカ……そげましたか、そげたのなら、そげればよい。
ソゲンコツジ…そのような事で、それは無理では、乱暴では。
ソゲー……そんなに、そんな事で、無理では、気がつかない。

そ　ソゲンハダ…そんな事は、それはちがうのでは、それは無理。
ソゲナ……そんな、そのような、無理な話で、少し待って。
ソゲチ…片側に寄って、片寄って、曲がって、予定より外れ。
ソゲンコトン……そんな事も、予想異常な、予想意外な事も。
ソゲンモンジャ……そのような物です、予想が外れて落胆。
ソゲセカンデン……そんなに急がなくても、慌てても。
ソゲナンナ……そのような物は、予想以上の物は、知らない。
ソゲナコチ……そんな事に、知らなかった、予想に反して。
ソゲマジャ……そんなにまでは、そのような事は、論外な。
ソゲーエ……そのように、そうでしたか、知らなかった事で。
ソゲイヤ……そんなに言えば、そんな聞いた事が、あきれて。

ソコナシ……底がないような、予想以上の酒飲み、太っ腹。
ソコソコ……程よい程度の、ほどほどに、普通であれば。
ソコマジヤ…そこまでは感知せず、頓着なくて、知らぬが仏。
ソコラジユー……そこら一面に、周囲に広がって、周辺まで。
ソコメシユ……底に焦げついた飯、おこげのおいしさ。
ソコガアルキ……そこがあるから救われる、命綱、救助所。
ソコジカンガイ……そこでゆっくり考えて、余裕が必要。
ソコラソンゲ……そこら周辺、一面に広がる、周辺一帯。
ソコンシヤ……そこの家の人は、その家の人たちは。
ソコツキャ…底が見えて覚悟、限界に入って、最後の土壇場。

ソコヘン……そこらあたり、その周辺、その方向の場所。
ソコラジュー……そこら一帯、その周辺、周り一面の。
ソコマメ……足の裏に出来た踏み板傷め、無理をすると外傷。
ソコンホウ……そちらの方向、そちらに狙いを、調査地点。
ソコベラ…底の当たりを、決まった場所の指定、底辺の位置。
ソコカル……底から、その辺から、その場所が起点。
ソコラヘン……そこら当たりが、その辺が問題の場所。
ソコンヘン……そこらが、一番問題の場所、ここが問題点。

女性の底力



声かけで育ち太る作物

あんまりスポーツはやらん　こんしゃそんかわり　田のクロ畑ん中にヘールト『アンタ　サカシイナ　太りよるなぁオオキニ』チ　誰か人がおるんかち　通るしが見とるるごつ　話ししよる。『りゃーもう　コゲー大きゅなったん　元気モンジャナァ』ち笑顔じ話しかくるものじゃき　舅さんな『お前ぁ　ゆう話すきじゃろう　野菜が喜びよるど』ち　冷やかし半分に褒めよる。

褒められち　悪い気持ちんするしゃ　ネーキ　なんかみんなが楽しい笑顔に　引きこまるるもんでんある。お勤めが済んだらチョコット畑に　『また行きよんな』　近所んしどもも　日課のごつ暇さんありゃ　田畑ん仕事じゃき　手本にせにゃち　言うな易いがソレカチ　ジッコウちなりゃ　なかなか難しい。

朝ちょこっと　畑に行くと　2，3日前に撒いた　種もんの芽がもう出ちょる。『あら　あんた早ぇなぁ　ショワネエンナ』しゃがみ込むと　話しかけちじっと見よると　不思議なもんじ芽の先に　朝露がするっとノボッち　見る見る丸なった。じっと見つめちと思うたら　それがふつくらと　膨れち重とぅなったんか　『ぽっ』と　見ちょる目の前じ　割れた拍子に軸を伝わっち根元に落ちた。

『りゃ　まあまあ　あんた上手じゃなぁ』　まるじテズマンごたる　一瞬の出来事。百姓しよってん　こげな芸当はめって見る　そげなこたーナカロウガ　ヤッパご褒美に見せち　クレタンカ　ウレシュナッチ　『オオキニオオキニ』　家ん昼時にこん話に　花がさいたんも　日ごろん声かけが　よかったんじゃろうか。

それかるは　ナオサラ声ぅかけたり　話たりする明け暮れが

つづくもんじゃき　きんじょん評判にもなった。ゆう昔かるん話しにゃ　おやじが　ねじ鉢巻きしち　鍬ぅカタグルト　田ノクろぅ見ち回りよる。稲が慌てち　『おやじが来たど　揺らしち』そげ言うと　みんなずり葉をユスラケータ。親父は足ぅとめち『うん　水がすくねえんかの』　じっと株を分けち見よる。

『手叩き水じゃがのう　そうか肥料がほしいんか　解った』ち昼からは　もう肥料を　ヒネリヤリしよる。田の畦じこれが解る　早めん肥料やり　タイミングガ　イイキ一番ほしい時に　効果抜群じゃつた。こけが百姓ん熱心さ　体験奥の手　企業秘密かん知れんが　早く気がつく　察するんが作つくりん鍵んごたる。

じっと話聞いちょつたが　『うっとどう　早ぅかるショルニ』チ　にたっと笑うたが　『しめしめ又知恵がマイコンだ』　じゃねぇな。聞いた事が役に　たったり悪い事も　知ったりん世の中じゃった。『あんたどうも　すぐ言いよえ　気がつかん　事もあるきな　ほんな又昼かる来るで』

執念は自然と出るもん　とっさにも出るき　すぐ間にあう技。コツが解ることじ　思わぬ奥の手にもなる。芯をとめたり　枝をのけたり　チョコットん仕事が　思わん実りにも響く。『元気』『ゆう太りよる』『おおきに』　人間に話しかくるごつ　声をかけち畑を回ると　影に真っ赤に熟れたトマト。

夜露に朝日がキラリと　輝くと瑞々しい　野菜が『ありがとうさん』ち　言い寄るごたるき　今日も嬉しい。笑顔がつい出ちこっちまじ嬉しゅなるんも　こん人ん優しい扱いが　声かけが物こそ言わんでん　伝わるもんじゃろう。『あんたの命を頂くきな　あんたが人間に　生まれ変わるんで』

今日も畑で話す声は　もう専売特許じゃが　嬉しい心の表現。

執念燃やしたクチナシ栽培

農家ん担い手としち　事情じ秀才を犠牲にした夫が　常に将来を見据えち収入源ぬ　探索しよったが臼杵料亭が　黄飯材料でのクチナシに目をつけち　いろいろ調べたり研究したり。じゃがどん手弦からも確信な持てんじゃつた。農家ん忙しい合間にゃ　里ん世話役　青年団の役職　父親ん関わった井路ん仕事と　家を離るる事しきりん生活。

じゃが手こまねてん　先にゃ進まんち種を撒くこちなった。本当は苦労は女にのしかかるち　気が進まんじゃつたが　夫ん執念の種が芽をでーた時ん　喜びようは話しならんごつ。『これならしょわねぇど』　顔見合わせち　取り組むこち覚悟決めたんが今日に結びちーた。

発芽は難しいもんじゃき　芽が出たもんの管理が素人　じゃき大丈夫じゃろうか　不安もよきり手探りん　毎日も続いたもんじゃが　もうここまじ来たからにゃ　ヘモドルワケャいかん。覚悟決めた日を思いだしながら　春先ん花つきぅ待った。所がまっ白い花が緑ん葉の中かる　覗きでたもんじゃき　『咲いたで』

花つきは少ねぇけんどはこんだ　実がどんくれつくかも。八重んクチナシにや実はつかん。ほんなこっちゃショワネエカ。心配してん仕方あるめー『なるようになるわい』　あっけらかんと笑う　頑強な夫が突然病魔に　悲観と不安とが一挙に　訪れたがどうにもならん　これも宿命じゃろう。

もしかすりゃ『これじなんとかイノチキん足しに』ち　残しちくれたんじゃなかろうか。『お前にゃ苦労かくるのう』ち　口癖に言いよったそん言葉が　まさかになっちしもぅた。じゃけんどクチナシん花は　今年も見事に咲いち　香りふくよかに。

小学校交流ん関わりじ　職場ん材料利用んタイムカプセルが地元ん学校と　萩町ん学校にも。やっと軌道に乗ると　光る頃ぅ迎えたが　天は遂に夫を帰らぬ人に召した。しかし執念の宝物となった　クチナシは今年も花をつけ　実りも迎えた。体験者が効果があって痛みが癒えたと　喜びの声しきりに涙堪え。

子ども達の余暇の応援　娘が集中した世話の手助け　親戚が影から日向から支援する　夫の遺志の生産は細々であっても大切な宝物として　生きがいとして残してくれた　思い出の財産でもあると思う。少し涼しくなった秋口に　収穫したクチナシの　黄色い豆姿にふっと　夫婦で挑戦した不安な　季節が蘇る時やはり博学繊細であったが　先見の目があり苦労させまいと　ひと滴残してくれた　可愛いいクチナシの花物語　花を愛で香り楽しみ　秋ん収穫じ救わるる人ん　喜ぶ顔に嬉しさも。

人は一人じゃ生きられん　皆んなに支えられち　生かされちよる。じゃ自分に何が出来るんか　夫が残した人助けがあったと　すりゃこれが　社会にご恩返しん役目ち　寒い空んもとでん　防空頭巾ひっかぶっち　やりよると苦労も飛んじ　鼻唄んヒトツも出そうな秋晴れ。

若い頃ぁ苦労も多かった　世話役じ仕事そこのけに　出ち行く日も多かった。そん留守に一人じ　男仕事に負けんごつ荒仕事もしちょつたき　今でん子どもたちが　加勢に帰るまでんクロギリでんシチョカニャチ　出来るんも　優しゅう教えちくレタ　からじゃろう。

喧嘩もゆうしたが　それが刺激になっち『負けん』　そげな気力もまぁチッタ　ノコッチョルゴタル　気がしちならんな天国かる見守っちょる　けんじゃなかろうか。又そろそろ収穫時期じゃが　『あぁい忙しいこつじゃなぁ』

予想に反した人生航路

夫が店の主じゃき農業は一人占め　屈託ねぇごたるが　心ん中は予想かるマルジ遠回り人生。結婚話ん時にゃ好きな　シガオッチモウ…じゃが皆んなずれぃ　勧めらるりゃアンマリ　嫌いやも通らんが当時としちゃ　あたりまえじゃつた。酒もタバコも飲まん　腹もたてんマコチ　いいシジャキ。

ところが祝言のその日に　もう飲みすぐるぐれー飲む。ありゃまぁアンシタチン　勧め言葉は『空手形』じゃつたんな。けんど夫婦になった以上は　そげな自分勝手は　アンマリイイワケニャなえ　ふんとまぁ。ち肝据えちもう　４０年すげた。あんまりシタコトンネェ　百姓も見よう見まねじ　『あんたハリコムナァ』

マックロになっち　里にタマサカ帰ると　育てちくれた母親が『まぁまぁ　ムゲノコサレ』ち　抱きしめち　くれよったもん。寒い頃にゃ　ゆう愛宕山に　松葉かき行き　行く時ぁ籠に入っち　上り坂ぅカルイあげち　クレヨッタ。半纏ぬ着こんじ　頬だけか冷ていもんじゃき　涙を滲ませち見上げたら　『よしよし』そん涙を手拭いじ　拭くと『帰ったら焼き芋じゃろぅ』

そげな優しかった母親が　目の前に浮かぶと　『くそー我慢せにゃ』ち　はりくうだもんじゃつた。店に自転車じ弁当を運ぶと　帰りよせんこんだ　子供と両親とん　昼飯にゃもう手っとり早いもんでんは　すかんき　手際ゆうチョコット　小皿にもりつけち　ぐるっと囲んだ食卓。皆んなん箸がウゴキダスト　途端にダリガ顔覗かする。

ツタンカーメンの種を　貰うち撒いたら具合ゆう　芽がでちょる。大けな豆がナルキ　楽しみしちょつたら　虫がチータゴタル。慌てち予防したき　なんとか食い止めたが　ふんと花も美しい。

実の粒も大きゅうじ『もうかった』ち　心がなんか躍動するごたる。よる帰ったき　『ツタンカーメントレタデ』　見せたら　じっと見つめち　『やんがん大けな　先んごたる』　笑いてーぬえーと堪えち　『チュウカンガち』　苦笑いしちしもうた。物造りん楽しさは　格別じこん頃は『作づくりがウマイナァ』ち　ゆう褒めらるるき　骨折るけんど『まぁいいか』

歴史に興味があるもんじゃき　懇意しよった詳しいシニ　聞いたら『ほんな連れなうき来りゃいい』ち　返事があったもんじ　次ん日にコッケムクリ　行くともうシコしち　愛宕山に上るこちなった。途中の田んぼにゃ　大好きな『イヌフグリ』可愛いいコンメー花が　咲いち寒風に揺れよつた。

西暦１０００年時代ん城跡゛まぁ石段跡がちっとある　案内しちくれたシガ　棒先じゴソーをはねのけち　『これが当時ん石段の残りで　欲しかろうが持っち　帰ると悪いきな』　大笑いしちしもうた。こんしがコゲナ話しゅまぁ。つぎつぎと知っちょる話ぅ　しながら上りついたら　眺めがいい。

母親とゆう松葉取りにきた　あん幼い甘えん坊時代が　走馬灯んごつ甦っちくる。源義経を迎えるこちった　戦国時代ん話にゃ　熱がこもっちそれが　夢物語りになったき　真剣残念じゃつたごたる。『わしが腹ぅたててん　しかたねんけんど』小首かしげたそん　横顔はふんと　絵になるような　こんしの話に　今日はなんか心が　はればれするごたる。

あん時ん話が鮮明に回想されち　こん頃また歴史探訪ん仲間にち　意欲が燃え立つき　申し込みしち見た。予想に反する事ん多かった前半じゃが　これかるはもちっと　勇気でーち自分勝手な人生も　いんじゃなかろうかち。ひょいと振り返ると『ありゃまぁ　もう還暦すげちょらまぁ』

学習物語

3

『女人禁制の起こり』

和銅３年《７１０》権現に悪病流行とあるき　当時としちゃ珍しい事じゃが　よそかる帰ったシタチん　病気みやげじゃつたんか。それまじカカッタ事がネーキ　いっぺんかかると　ソリウすぐに皆んなに　ウツッチ広がる。仏教が伝来したんがここらへんじゃき　そげなルートじ入った　そげー考えらるる。今まで体験せんき　養生んしかたも　クスリもそげーネエキ『アイタノゥアイタノゥ』ん　声が聞かるるが　ドシュモナランジャツタ。

国東六郷満山にゃ仁聞菩薩が　広めた頃にハヤッタチ言う。神亀４年《７２７》にゃ　高城山に子安観音を　安置した行基とあるき　一の瀬川原ん普門寺とん　関わりもでちくる。愛宕山に鷲ヶ城ん築城、人ん行き来が多くなり　物や文化とともに病気も　どつとんどっとん　広がりよった。治療方法が進まんじ　祈とう所ができ　庶民は神仏にと　焦りも多うなち行く。

清々しい風が　えーと汗も　ヒッコンダち　思うとちっと肌にゃ　コンコロモチがいい。『握り飯どげぇ』　ヒョイト指しでーた　途端に独特ん　味噌漬ん香り。やっぱ丹精こめたち　すぐにでんヨバレテーが　ここじ『そうか』ち　手をデータンジャ色気もねぇ。『こりゃまぁ　済まんのぅ』ち　手を合わせた。ょ

うぶな娘にしちゃ　なんとまぁ手際んいい　やっぱ母親がそげえ　躾たんじゃろう。動作にしてん　同じトワズ言うごたる　言葉んハジハジニデン　何とのう気品があるんも　それが頷くる。『忙しいにゆう　シコ出来たんじゃな』『アゲンコトンジョウこんくれんこつー　出来にゃ……』『じゃのぅ』　思わず嬉しい笑い顔になった。手拭いじオシアラウと　大けな手をサイデーチ　１ツ握った。そん感触にゃ娘ん真心が伝わる。

元永２年《１１１９》天徳寺廃寺ん後　霊位を引き継いじ　普門寺を建立　若者ん修業所を設け　安部実任入道法眼阿者利とあるき４００年ほず　前にあった天徳寺を　引き継いだんじゃろう。こん寺は英彦山の末寺ち言われ　熊群山東頼寺を開いた　安安部実任の子。

安部実任が熊群山と　高城山吉祥院、普門寺に　観世音菩薩を一体ずつ　刻んで納めたと言う。普門寺は一の瀬川原にあり　祈念の場所としち『女人禁制』を　なした事から宇曾山、精進ヶ岳、御座岳、を修業ん場としち　若い僧ん教育もしたかる　現在ん宇曾岳神社にもある　『女人禁制』ん　決まりはここに　始まったんじゃろう。

そん普門寺境内にゃ暦祖ん　塔印《天徳時代ん墓地か》に陸奥に生まれた『梅の木』が　植えられちょる。創始安部実任が陸奥に　関係があったのか　それとん陸奥に領地が　あったんか雲ん中に　美しい虹が浮かび　出るごたる思いもする。子どもたちが川を渡っち　山かる取っちきた　ガラメやアケビを　食う姿とぅ見ると　若い僧たちゃもう　故郷ん母親を忍び　幼かった頃がふと　思い出されるんじゃろう。仏道ん厳しい修業ん路　そげなこつう追うんも　人の子じあり苦難の　修業ならではん　事でんあろう。故郷を遠ぅ離れち　他国にあると思うんは　どげ言うてん母んことじある。

峠越えれば歩いて３里　山が高こうじままならぬ。里唄にもあるごつ　つい目の前にあってん　あん高ぇ山がアルバッカリニ
歩きゃ３里でん　ドゲシュウもネェ　ハガイイ事バツカリ。

じゃがそん苦労しちこす　背伸びも出来る事が　あるもんぬ皆んなシヨル。じゃき人並みと思ゃ　腹もタツメェし　腹たてた方が負け犬になっちしまう。幸せは努力と運と　巡り会いじゃき。

△△　さとの修験場　△△

修験場の宇曾ん山が　みどりましち陽の出が　早ぅなっち朝ん光りが　朝露に濡れた木木ぅ　照らしちくるる。一の瀬川んせせらぎん音ぅ　聞きながらん　食事ん後かたずけする　若い人たちにも長く寒かった厳しい　冬かる開放されち凌ぎいい。遠ゅう離れた父母ん許ぅもう２年　梅ん実を眺めち母を思うと　頑張っち一人前にナラニャチ心に決むる　朝んひととき。

§§　流れん清い　七瀬川　ト　サイサイ　七瀬川
　　かじかの声や　蛍がり　ト　サイサイ　蛍がり　§§

鐘が鳴り拍子木に　合わせち般若心経を　唱えち今日ん日課がはじまると　七瀬川水ん音やら　木木んさや揺れが　交差しち朝焼けん空間ぬ　波紋んように流れよる。修験場ん静まりん中に　素朴な姿ん仏がぽっかり　現れて苦しい若い人たちん　心に悟りを授けちくるる。そこに仏門に入った　人たちん心ん　喜びも浮き彫りされ　生まれいずる　自信も持てるごつも　なるようにある。

朝のお務めが終わった　しばしん一時　里ん娘に逢うことも　話す事も出来んけんど　寂しい寺内ん　こん人たちにせめてもん　慰めん言葉をかけちアゲテェ　と娘心が畑仕事に　行く語らいん中に伺えち　木の間がくれに見ゆる　仕事着ん女らしさん　言葉んやりとりが　まるで見ゆるごたる。心んやすらぎち　そげー思うと悪いんかん知れんが。

心くばりしたそん　気持ちだけでん　どんくれー嬉しいもんか。そげな優しさに　生きる幸せも感じ　里ん人たちん為にも　尽くさねばちふっと　心に呼びかける　そげな風がサツト吹いた。宿命の中にある人間が　生きて行くそん中じ　人の世話に心がなりよる宇宙ん仕組みとは言え　厳しい現実が　それを教えちもくるる。

★★★　円福寺について　★★★

円福寺たぁまこち　響きんいい寺ん名前。下谷にひっそりした内懐には　東と西にゃ風よけん　山が連なり南に　宇曾山を仰ぎ見る位置にある。北は透けて冬ん風は　冷たいけんどそんかわり　夏は暑さが和らぎ　涼しい風がすり抜けちくるる。『両方いいんが頬かぶり』たぁ　まこちユウ言うたもんじゃ。

谷川んせせらぎを　行く水は美しく　つめてーな勿体ねぇぐれじ　周りに咲くいろんな　花にも幾百年も　続けち育って来た暖かい心が宿っちょるよう。東に居を構えちょる　庄屋さんかたん　屋敷ん高さと　同じにするようにと　西ん円福寺も　山を受けた広い寺域ん中に　建物が整然と並び　心んより所にふさわしい　場所でんあった。

寺に仕える人たちん　手入れんゆき届いた　境内にゃ松、杉んほか古木、珍木、もあり仏の前を飾るにゃ　こと欠かぬようなそげな花ん中に　ひときわ香ぐわしい　梅や桃の木にそっと　抱かるるごつ白いシャガ　黄色んヤマブキ、むらさきんテマリコ、なんかが　旅をしち来た人たちん　心ぅ慰めちもくるる。

周りん山肌や谷ん周りに　散在する家並みも　含めち５０戸あまりを　中心とした心んよりどころは　里ん日々ん楽しさ含めてん　よそん人たちにゃ　比べるこた出来んごたる　素晴らしいもんが　見て取れる。これこそ自然の中での　人間の生きる場所でん　ありそうに思われる、

円福寺や庄屋さん館を　中心に道行く人たちん　明るい顔がそりゅう　物語っちょるよう。年頃ん娘たちん野良着に　そっと手を貸す男らしい　姿体に流す汗ん光りは　いつん間にか優しい情愛に変わり　幸せな実りにと進んで　めでたい祝い船が　帆をあげて。

応永２１年《１４１４》源家の中心　新田義貞の臣江州佐々木の末葉　金丸三郎憲貞が　直入郡の柏原氏神八幡宮より《現在は田代八幡社と言う由。後醍醐天皇と北朝方と戦った　新田義貞が越前藤島で武運つたなく戦死。のち大友を頼り豊後にくだり　柏原郷田代村に京都の　岩清水八幡社を勧請して　義貞の霊を祀り当社を建立した。柏原村９ヶ村総鎮守であり　旧藩時代は上社に維新後は村社だった。社殿は天保１２年《１８４１[redacted]建立。現地の調査によれば》

上記より勧請して　当村に森永左近照義が　一宇を建てち『宇曾山円福寺』とした。当時は天台宗ん力が　強くて行政機構じゃこげな　形じ作られよった。六郷満山も同じケースんよう。円福寺にゃ天台宗本尊をはじめ　大天狗豊前坊、宇曾大権現張山坊、洛北松尾山鞍馬寺奥の院多門天狗大豊坊も　合わせ祀られたち記録されちょる。

祭官にゃ大和加茂神社の　社家板山某がなる。郷士広瀬一撤斎、庄屋太郎右衛門が　信仰の祭神としち　地域にそん教えを広める。はじめ過原にあった　円福寺も下谷に移し　宇曾山の神宮寺としちょつたが　広瀬、橋本、などん勧請じ奥の院に移し　日本兵法第１社『宇曾大権現鞍馬大天狗宇曾山張山坊円福寺』となる。これじ密教は円福寺に　尊神な奥の院に　鎮座するこちなった。

張山坊とは源家以来ん　『源家守護の御神霊』ち　言われる。このようにして　宇曾連山は　英彦山、尺間山、を結ぶ直線上にあり　山伏ん修験場となる。松ん梢に風鳴りがすると　白衣を閃かした天狗が飛ぶ　鬼は慌てち隠れ　よからぬ病魔は　叶わぬとひれ伏した。じゃが一時逃れじゃき　見抜いた神は　忽ちにそん魂胆を微塵に砕く。子どもん病気も　こりゃもう叶わぬと　退散したと言う。『子どもん虫封じに霊験あらたか』　そこにある。正月、春秋ん彼岸中日、お参りん多いのん　ゆうわかる。

修験者はほら貝を吹きながら　錫杖をつき一本歯の下駄に身を委ね　山里に下っては、行の力と神の霊験によって　村人の病気を治した。特に子どもの　『癇の虫』は　たちどころに治すとその霊験の高貴さがあった。今も続く『虫封じ霊験』は　特質なご利益があって　救いを請う人が多い。心の問題もあるが。

円福寺はのち　禅寺となる。白衣をヒラヒラさせて　小走りに動く修験者が　みどりの木木の合間を　揺らして行き交う時　里の道行く人たちは　神仏を拝むように　手を合わせて　我も無病息災を念じたことだろう。あの山　あの岩陰　から突然現れるそん姿はまさに神であり　仏じあるのかん。神神しさもあった。

当時の宇曾山奥の院の祭神な　日向鵜戸大明神絵図、祖神鹿取先生霊位、観世音菩薩、鞍馬山多門天張山坊、とされちょつた。山を崇める人の心の　より所でんあり　多くの人たちの修験の場として　大切にされちよる　山だけにこのような　祭神をお祀りしたんじゃろう。

女人禁制ん山じゃあるが　里ん女性もそん代わり　男たちに託しち家族ん息災　里ん安全を念じた事じゃろう。鵜戸大明神のまつられた　起因は不明じゃが　宮崎鵜戸神宮とは　全く関係なかったが　同じ修験場としての　想像すりゃまた共通するいろんな面があるんも事実じ　嬉しい思いも起きる。

東の間のより所として　修めたのかも知れない。鵜戸神宮も吾平山仁王護国寺といい　日本３大権現の一つじ　あった別当寺とん　関わりあいは　一連の山岳宗教ん場で　あったようである。

こげな連なる山と山が　関わって長い間に　人が幸せに過ごせたんも　元には神仏があり　宗教が心に示す生き方の　御手本でもあったのでは　なかろうか。天狗さんにも感謝せにゃなぇ。

△△△△△　方言説明　△△△△△

４５Ｐ　シタチ…ひとたち。まじ…まで。ネーキ…ないから。ソリゥウ…それを。ネーキ…ないから。ドシュモナラン…どうショうもならない。コンコロモチが…とても気分よくて。ヒョイト…突然。ヨバレテー…いただきたい。データンジャ…だしたのでは。トワズ…冗談を。シコ…準備。ゲアンコトンジョウ…あんな事ばかり。オシアラウ…押して美しくする。

４６Ｐ　ほず…ほど。ガラメ…野ぶどう。どげ…どう。アルバッカリニ…あるものですから。ドケシュウモ…どにもならなくて。ハガイイ…悔しい。バッカリ…ばかり。シヨル…している。

４７Ｐ　ナラニャ…ならなければ。けんど…ですが。アゲテー…あげたい。だけでん…だけでも。そげな…そんな。なりよるつている。

４８Ｐ　くるる…いただける。まこちゆう…本当によく。テマリコ…アジサイ。手テを貸す…加勢する。

４９Ｐ　柏原…竹田市荻町。くだり…こちらに。しちょつた…していた。じゃが…ですが。じゃき…ですから。

５０Ｐ　したんじゃろう…したのでしょう。あるんも…あるのも。こげな…こんな。せにゃなえ…しなけれよいのに。

女人禁制…一つの思い逢う気持ちとしては　女性を大事にする底流がある　優しい思いやりが　こんな形になった。とも解される場合もありそう。同伴でお参りする夫婦でも　上り坂では子は父親が背にする。それでも女性は大変である。やっと上ったのだが疲れは　もう限界でもありそう。それなら母親は拝殿で待ちその間に父親が奥の院に上って　祈願をしてもらう。奥の院の石段は素足で参る。女性の足冷えも苦痛であろう。落ち松葉が足裏を刺激し　刺さることもありうる。

勿論きびしい修験の場には　異性出入れは妨げになる　当然の摂理だろうが。奥の院の御戸開きされた　この日は格別に許された　禁制には『せめてこの日は』と　許されるのかも。思い逢う心の判断は個々に　判断すれば神も許し　仏も頷くのでは。殊更我無しゃらに禁を犯すのも　条理ではないが　元は人間の理性が決めれば　心も落ち着いて　祈念もできるんじゃ　あるまいか。

※※※　語り部ゆらぐ炎の中に　※※※

一椀の粥を馳走になった　旅ん僧は家族も　仲間に入れち果てしねえ　世のさまざまを語る　そん時にや炎ん中に　美しゅう映し出さるる　こん地のさまざまな語りに　いつしか雨も上がっちょつた。月も美しゅ照り　隙間風ん寒さも　燃え盛るタキ木のパチパチっと音になしか　心に優しい余韻も残しちくれよる。

ここにゃここなりん　民話もありゃ伝承ん話も　ケックシャあろうが　暖こう包んじくれた　こん家ん人たちに何か　みやげ話こすがお礼ん心くばりかん　知れんじゃろう。源家ん守護神ち言われた　張山坊にゃ常盤御殿の　涙ぐましい物語りがあつた。子を思う気持ちが　生き別れになった　身を案じち京都ん寺じ　そん健康を念じち守護神に　ひれ伏しち拝したち言う。

平家ん手厚い思いやりに　感謝と無事を念じた事が　虫封じん健康祈願に　結びついたとん言えそう。牛若丸は義経じあり　鞍馬僧正が谷じ天狗についち　剣術を学びのち兄と共に　平家追討に大けな役割ぅ果たした。が追われる身になっち　奥州じ生涯を閉じる。こん修行に協力した天狗たぁ　まさに張山坊じあり　宇曾山に勧請した円福寺に　関わる源家の御神霊じゃつた　事と結びついち来る。円福寺ん石段を上り　開いた本堂に安置されちょる　諸仏は戦火に類焼されち　いたわしいお姿をとどめちょる。

人の心の中に宿る　仏たちの姿は幾百年も　続いた世の中の移り変わりを　じっと見ていたことじゃろう。さや揺れる風に滴が一つ　二つと苔むした　石を濡らすそん有様　まさにそん涙んように　光っちょつた。自然はだまり　過ぎ去るがそん中に知ってほしい願い　解ってほしい悔しさも　あるんかも。

まっ白い指が　かがり火に照らし出された　そん手じ薬草湯が出された。暮らしん知恵に　教わった秘法じゃろう。旅ん人に温こうもてなす術を　尽くしたそん心くばりに　燃える火の温もりとは　また異なった人情味に　接するひとときである。この家ん主が伝わる民話を　ぽそり語りはじめた。

★　鬼と天狗の名勝負　★

宇曾山に降った雨水が　麓ん人たちん作った畑を　洗ぅち作物がコンゲンネェいたむ。修行ん場としちょつた天狗は　なにかいい方法はねえかち　頭を悩ましよったが　そげなある日ん夜明けに　岩穴かる鬼がヒョツクリ　現れたんじゃ。空腹じ食い物ぅ捜しよるごたるが　荒らされた畑にゃそげー　食い物もありゃせん。鬼もこまっちょるごたるき　咄嗟に天狗は思いついた。

『お前も食い物に困っちょるようじゃが　こきー８８ん谷を作りゃ　食い物ぬ約束してんいいが』ち謎かけしちみた。『え谷を８８か　いつまじ』　乗ってきたのでこれ幸い。『３日間じゃが出来にゃほかに回すが』　考えよった鬼は　サンニュウスリャこりゃいい話。『よかろう決めた　あしたかる』『ホイ』

話がトントン拍子に進んじ　いよいよ明日かる仕事も　始まった。ほっした天狗。しめしめ食い物にありつけたと鬼。そんうちまた小粒ん雨も降りでーた。こん雨が仕事ぅせき立てたんじゃ。夜が明けよせん鬼は　仕事を始めち柔らこうなった　土が動く。

働く力はもてあましちょるき　１日目にゃ５０本が見事に　でけたもんじゃきダッタ鬼も　早ぅ寝ちしもうた。夢にゃご馳走が追いかけちくるごたる。天狗も『こりゃヤルワイ』と　安堵しち２日目になった。キニョウタ違うごつカンカン照り。鬼もヨコイヨコイ汗まみれん　はりこむがデーブンダッチョル。

それでん３０本が出来ち合計８０本。ちったダリガタマッタそげな顔しよったが　『食い物の不自由がねぇ』ちなると　目の色がまた生き生きしよった。天狗はチット慌てち『コリャマァ』ち　思案したもんじゃが　『しょわなかろう』ち　里中ん鶏ぅ集めち話しゅう始めた。

谷が出来るの嬉しい事　食い物を準備するんもいい。じゃがそれじ働かないんじゃ　かえって悪い状態じゃき　チョイト灸をスエニャ悪かろう。『みんなこれこれしかしかじゃき　早朝にゃ鳴かないじ　昼過ぎにチョコットだけ鳴く』　そしち静かにしちょく事に決まったんじゃつた。

２日働いた鬼も残り８本なら　晩方チョコットじ出来るち　合点すると頑張る力にと　大酒飲んだあげく　ゴロリキュン。ごー鼾が周りに響いたそうな。朝になってん鶏も鳴かない　静かに朝はすぎ曇天気じ　外は薄暗いもんじゃき　チョコット目がさめたが　『まぁ早ぇんか』　またゴロリ。

エート薄暗ぇ曇空ん晩方に　目がさめたが飲みすぎた　頭が重てーき飯ぅ食う気にもならん。ゆう見りゃもう陽は西ん山　ありゃ『今日は陽がこっちかるか』　そうこうしよったら　暮れそうになりよる。『こりゃ大事』慌てち　外にでるともう晩方じゃつた。『しもうた　こりゃもう負けた』　鬼は自分の貪欲に反省しち『俺がおったんじゃ迷惑』と　あっさり里を後に旅に出た。こん鬼もやんがち『帰って来た鬼』じ　またお目もじします。

多佛心經

方

ちまきダンゴと　端午の節句

鯉のぼり泳ぎよるともう　見ちょつてん心が浮き浮きする。近所に男ん子が生まるると　鬼ん首でん取ったごつ　何か嬉しゅうなんな皆んな　同じじゃろう。『さぁ今年しゃ特別　大けな粽んダンゴ作らにゃのぅ』　柏ん葉やらトキワ茅やら　じいさんがん仕事じゃき朝かる　ねじ鉢巻きしち腰に　厚鎌せーち出かけた。

子供がすくすく成長する　そげん願いもこめち　祝う行事じゃが　もともとは中国じ　こん日を病気や厄よけん　行事をした事かる始まったもん。日本でん５月は　田植え時でんあり　若い人たちん危険も多ぅなるき　そげな事故もねぇごつ　心がくる教えん一つでんあった。

ちまきダンゴは　もち米じダンゴを作り　トキハ茅に包んじイグサじ結んだ上品なもん。トキハだけでんねぇ　場所によっちゃコモ、ショウブ、ヨシ、クマササ、なんかじ包む。こげなんは殺菌作用もあっち　蒸し上がったときん　独特な香り匂いは　それだけでん元気なる。

米は昔かる日本人にゃ　大事な食べ物じゃつたが　中でんモチ米は格別なもんでんあった。じゃき食べる時にゃ　なんか神様にでんなったごたる　気持ちにもなりよった。高級な食べ物でんあっち　餅は独特な風格も備えちょつた。暑さが増しちくると　トキハカヤも背伸びしち　揺るる草木ん中かる『こきーあるよ』ち呼びよるごたる。

風になびーち季節を　表現するごたる農村　そろそろ田植えも始まるんじゃろう。田んぼに水が入っち　ワクドもわが物顔にこっち向いた大きな目　時にゃ雨も降らんと　目ん玉が乾くもんじゃき　ゆう手じ目のふちゅー　撫で回しよる。

家にゃ祝いに貰ぅた　武者人形がお祝に来た　そげな人たちぅ迎えちくるる。子どもは元気に飛び回り　生まれた赤ちゃんな来たしたちが　たらい回しに笑顔じ　迎え送りしょる。鯉のぼり吹き流しを世話するごつ　幟も威厳があっち　風が吹くたんび環が　カタカタち心地いい　音を刻みよる

子供ん声は家庭円満の証　みんなが支えちくれちょる　そきぃ人間社会があるが　助けおぅち生きているのん　常日ごろん付き合いがありゃこすじ　サカシイ日ん暮らしも　そげな地盤によっち　回りながら生かされちょる。人に迷惑かけんごつ　元気に過ごすことん　いかに幸せな事じゃろうか。

柏ん葉に　ちょこんと座っちょるんが柏餅。柏の葉に包んじ二つ折も様になっちょる。が　カンカラん座布団に　チョコント座り　も一枚おまけに上に乗せ　グアユウくっくいた『カンカラ餅さん』　チマキダンゴが　男ん子らしい勇ましさに比べち　カンカラに座って上かる　かぶせた餅ぅ　女の子らしいとん言う。

今は『子どもん日』ち　5月5日を祝うが　昔は一緒に子供ん日としち　祝いよったきそげな　話が生まれたか。人の心の中にゃ仄かな　夢やロマンも想像しち　物語りが生まれるち言うきふんと夢が花を開かせちくるる。どげな偉えしでん　生まれた時は赤ん坊　じゃつたんでなぇ。

お坊さんが遍路中じ　お茶ん接待にカンカラ餅がだされた。そりゅぅそっとカンカラを　ハイで頂くと突然子供が　も一つを取って逃げたもんじ　2つ食べたと思われそう。『美味しかったきカンカラまで食べました』　影で聞いていた子供　帰りかけたお坊さんに『私が…ご免なさい』　気がついてこそ人間　誰にだって出来心はある　早く気づくか悪いと思うか　そん境にあるもんじ　反省する勇気があるかが　と諭したそうな。

方言民話　読み語り　　『帰って来た宇曾の鬼』

天狗さんとん約束に負けち　よそに修行に出た宇曾ん鬼が　どうやらコンゴロ帰っち来たごたる。今まじゃチットグレン事ぁ　人があんまり言わんじゃつたが　よそじゃソゲンワケニャいかんもん。ちっと『熱ぅ』でーち困ったケンドそげな甘えは通りもせん。はじめち住み慣れた　宇曾ん里がドンクレ　よかったかが身に染んだかが　真剣解ったごたる。

『やつぱ俺ん住む所は　ここがよかったんじゃ　じゃにナシ甘えちょつたんか　自分でん歯痒ぅなった』　村ん辻ん地蔵様ん前まじくると　ペコリと頭ぅさげた。地蔵様も横目じチョロット見ると『ふふん　修行が出来たごたるのぅ』　おかしかったがジットこらえち見ち見らんふり。

供えちあるダンゴ見ち　『食べてぇなぁ』と　手を出しかけたらドッカル飛んじ来たんか　蜂がイッピキ見るなり　『ありゃこん鬼は　ここじ皆んなを　こなしよった鬼じゃなぁ』　そりゅう聞いた鬼は　『こりゃー悪い所を見つかった』ち　思うたもんじゃき手を　あげたらチクリ。『こりゃー大事じゃ』ち　思うと頭ぅさげかけた。

そん拍子に前にツンノメッチ　そんまま地蔵様ん前ん　石段に頭ぉゴツン。『ア　痛ぇ』　そん声が　あんまり大きかったもんじゃき　前を通りよったシタチモ　立ち止まっち　『ありゃ　あん時ん鬼じゃねぇ』『なにえ　なにえ』　ソウコウシヨルウチ　いっぱい人が集まった。『ふんとそうじゃそうじゃ』　鬼もタマガッチ　シモウタ。ジャケントジ　中にゃ『むげなこされ』ち　そばによっち来ると　『どうかえ　やっぱ七宇曾ん里がヨカロウガ』　そげ言われた時鬼は　『こげー優しく迎えちくるる　こん里こす自分が住む場所ち　しみじみ思いでーたんじゃつた。

それをじっと見ちょつた　天狗も『どうやら反省しちょるな』ち　気持ちを汲み取ったようじゃつた。でも　ここじ甘やかすとユウなかろうき　いっときコンママに　しちょこぅち知らぬふりシチョツタ。そん時じゃつた。どうやら火事んごたる　煙りが上がっちょる。『火事ど早ぅ加勢に行かにゃ』　次次と人が集まりでーた。鬼の出番だ　さぁどうするか……。

それを見た鬼は　『ふんと　よし俺がハリクウジャロウ』　側にあったムシロを　引き寄せ水にザブン　つけたムシロを頭に乗せち　一目散にツージ行った。あっと思う間の　出来ごとじゃつたが　それでん多くの人たちん　加勢じ大火事にナランママじえーと消し止められた。

数日過ぎた

『こん前ん火事ん時にゃ　鬼が加勢しよったんと』　そげな噂が広まったもんじゃき　天狗さんも嬉しかった。『帰って来たんじゃろうか』『まさかアン鬼じゃろうか』『反省したんかな』勝手気ままに話すのを聞く　天狗さんも　『そろそろ迎えち』とある晩に　鬼を呼び寄せた。

『皆んなも喜んじょるが　帰ったらどうか』『……』　鬼も嬉しかった。が　ここじソンナラと　それじゃあんまり都合いいこちなる。『考えさせて』と　いっぺんは断っち　皆んながそげな気持ちならと　『心入れ替えち』と　心から反省した事を　示したので　里の人たちも大喜び。里には又　天狗や鬼やら人間やらが　人間社会ん中じ　皆んなが助けおぅち　住む里に戻った。

世の中にゃ誰一人　要らないものはないものです。だから自分の出来る事をする。そして人の為にもなり　人に助けてもらう。それが世の中なのです。鬼もそれからは　仲よく楽しく暮らしたそうです。いつまでん……。

三佐かる竹田は１３里

馬子ん五助さんが街道じユウ　聞かれた時にゃ『三佐かる竹田はドンクレナ』『ジャナ１３里じゃわな』ち　返事するけんど　旅慣れんしが聞く時にゃ　そこかるち言わんじすぐ　『三佐かる竹田まじゃ』ち　聞くもんじゃき　聞かれたしゃテッキリ『三佐かるち思うち　じゃな１３里じやわな』に　なる。

そんしがもし途中じまた　コゲナフウニ聞くと　やつぱ『１３里んごたるで』に　返事がヘモドル。ソンはずじゃこと　三佐かる竹田はどこまじ行ってん　１３里は決まった距離じゃき　『ここかる竹田まじとか　三佐まじとかにセント　イツマデン１３里はキエズジマイななるなぇ。

じゃな野津原かる熊本じゃ　約２６里１０４キロM。江戸までじゃ２６３里ち言うごたる。江戸と豊後ん間じゃ　ちょいと３３日かる３５日かかる。今じゃ新幹線でん利用しち　朝出りゃ午後にゃ着くきニなった。ただ早ぇがいいんでんねぇが。戦後ん苦労したしドウハ少々ん　苦労でんショワナカッタが。

地震雷火事親父が　こん頃ぁいじめ原発放射能に　なっち来たごたる。どこまじ恐ろしい社会に　現実ん世界が変わりよるんが　マットおじいなぇ。小さい幼児が保育所に　通いよるが親とん朝ん別れも　どうやら身にちーたんか　『おはよう』『保育所に行って来ます』　なんと愛らしムゲネェなぇ。

でん今ん苦労が積み重なると　人ん有難さが解っち　友達ぅデージにし合うホリャモウ　いい人間に育っち行くごたる。お歳はいくつな　そっと聞くと『三歳』　『そうお利口さん』　『可愛いいでしょう』『うん……』　誰が教えたんか　でん素直なそん語り調子は　バアチャンそっくりじゃった。

戦中頃まじゃ大分やら　竹田ぐれまじゃ歩いち行く　そげんこた当たり前じゃつたもん。そしち戦後暫くまじゃ　物不足もあっち窓硝子が割れたまま　板をつけち窓にしたバスも　走りよったんで。人間な慣れちしまうと　もうヘモドルんな難儀なこと。今じゃ隣町まじでん車社会。田のクロ水回りも忙しい時にゃ　車じ一走りする事じゃつちある。

『三佐かる竹田が１３里ぇ　そげーあるかなぁ』　車ならまぁ１時間ちっとありゃ　行きつくんじゃねぇ。便利もいいけんど損な面もあるが　これももう仕方ねぇかなぁ。

方言説明

★５５Ｐ　もう…すぐ。作らにゃのぅ…作らなくては。人たちん…人たちの。トキハガヤ…草丈の長い茅。イグサ…畳表に使う植物。なんか…などは。こきーあるよ…ここにありますよ。ごたる…ようです。ワクド…蛙。もんじゃき…ものですから。

★５６Ｐ　そげな…そんな。来たしたちが…来たひとたちが。たらいまわし…順に回す。環…紐がからまぬようについてある用具。そきー…そこに。ありゃこす…あればこそ。サカシイ…元気健康。なっちょる…なっている。グアユー…うまい具合に。じゃつたんで…でしたので。そりゅう…それを。

★５７Ｐ　チットグレ…すこしぐらいは。ソゲンワケニャ…そんな事には。いかんもんじ…いかないので。ちっと…少し。ケンド…けれども。ドンクレ…どのくらい。ジャニナシ…なのになで。チョコット…ほんの少し。ドッカル…どこから。こなしよつた…苛めていた。そりゅう…それを。ツンノメッチ…転びそうになって。シタチモ…そのひとたちも。ソウコウシヨルウチ…まもなくしていると。ジャケンド…ですけれど。

★５８Ｐ　ゆう…よく。コンママ…このまま。づーじ…飛んで。ソンナラ…それなら。

５９Ｐ　ユウ…よく。ドンクレン…どのくらいの。ジャナ…ですね。コゲナコツウ…このような事を。ヘモドル…元の場所に帰る。ソン…その。セント…しないと。イツマデン…いつまでも。キエズジマイ…消えないままになって。苦労したしドゥハ…苦労した人たちは。ショワナカッタ…幸いに大丈夫。マット…もっと。おじいなえ…恐ろしい事だったですね。ムゲネェ…可愛いそう。バアチャンソックリ…おばあさんによく似て。

★　距離　１里…３６町《チョウ》…３，９３キロメートル。
　　１町…６０間《ケン》……１０９メートル。
　　１間…６尺《シャク》……１，８２メートル。
　　１尺……３０，３センチメートル。

◎◎◎◎◎　民話、伝承　◎◎◎◎◎

野津原かる横瀬に越ゆる峠道にゃ　ゆう狸やら狐やらが　おっち化かされたり　眠らせられたり　時にゃ話とぎぃなったりもしよった。化かさるるな相手ん　術にかかっちしまうち　言うけんどソリャ　どげじゃろうか。人間が化かさるるたぁ　口実じアッチ本当は　人間が化かしたんじゃなかろうか。

祝言帰りん土産をガイト　持ったしがユウそん　話ん主人公になるが　ふんなそげー狸が出るんなら　みんな連リ待ち伏せしち捕まゆるこちなった。じゃがソン話がもう　狸に筒抜けじゃつた。『よし来たど　お前は土産を取れや』『わかった』　こげな話がまとまると　峠じひとよこいしよる。そげんこたー知っちょるんか　どげかは問題じゃが　そん結末ぁ。

ちょうずそん頃じゃつた。同じこつー考えちょる　若ぇし共が『コイサ　セガウカ』ちこちなっち　夕飯もそこそこに　峠に集まった。橋ん詰めじ祝言があったき　夜中ぇ帰るしがある。『せがうんか』『そうど　面白いど　タマガッタ拍子に　裸になるしもおっち』『なにや』　ゲラゲラ笑う若いしたちん話。

月がいいあんばいに出たき　『影におらんと　解ると顔ぅ覚えらるど』『しょわねえき　俺がん顔はそこらにゃ　ねえきの』　勝手なこつー言うもんじゃき　狸が『何事が起こったかのぅ』ち　影べらかる顔でーた。ところがあんまりおかしいそん顔はもぅ　荒神ぬ見たような　おじい顔。

『よいコイサは　とてん　人間ぬ騙すどころじゃ　ねぇど』『見よあん顔まるじ　荒神のごたるど』『ふんとじゃのぅ』『こんだ姫が出りゅせんか』『神楽じゃあるめーし　そげーは役者が揃いめぇ』『解らんもんど』　めいめい勝手なこつー言いよったら　どれが狸じ　どれが人間か　解らんごつなっちしもうたき　たったままじ呆れ反っちょつた。

と　そん時じゃつた　多人数じ帰りん客が　ここまじくると『ちょいとヨコウド』『や　ヨクウンカ　ほんな土産ぅこきー寄せちゅかにゃ』　そげー言うと　そんしが集めはじめた。そりゅう　じっと見ちょつた狸坊主　『しめしめ　あっき行きゃぁヒトカルイもらいだすど。

そりゅう横かる見ちょつた　餓鬼大将が『やっぱ　アイツガ親分狸じゃのぅ　しめしめあっち　気を取られたわい。そんなかめ　コッチサネ　いごかしち　来たら棒じひと叩きするか。それとん　知らんもんじゃき　ノソノソ近づいち　そべー来た。『こりゃー狸坊主　おみやげは　これじゃ』ち　振り上げた棒じひと叩き。『あいたー　土産はそれじゃつたん』

龍姫を祀つった供養塔

二の瀬ゃ三の瀬を越すに　近ぇ場所に深い淵があった。行列が通る度ぃ川を荒らし　水ぅ汚すもんじゃき　淵ん龍姫はタマランジ　瀬渡りゅ妨害しよった。怪我するしやら　滑る人なんかもあっち毎回起こる　事故にゃ手を焼きよった。そん挙句にゃ祈願するこちなっち　お願いすると　『淵に住む龍神ん姫が　汚れを苦にしてん難渋ち解った。

そりゅう聞いた役人な　早速納経しちここに　供養塔を建つるこちしたき　それかるは大けな事故は　起こらんごつもなった。道脇に建てた塔ん　碑面にゃ南無妙法蓮華経ち　彫られちょるききっと　肥後領地ん関わりでん　あるんじゃろう。

道中を通る人たちも　そげな話しゅう聞くと　ナルタケ用心しち川を汚しめーえち　気をつけよったごたる。川は昔かるイノチキに　直結シチョルモンジャキ　汚さんのが当たり前　じゃがやっぱついウッカリ　が多かったもんじゃき　戒めもあったんかん知れん。

チヨウドん時ぃ大水どま　出るとヘリン崖べらを　崖にシガミチーチ歩くか　入蔵に上がっち山際に　おるる小道があるんじゃが　ソレケコス遠回りになる。そげなこつぅ思うと　チットデン近ぇトコルウ早ぅ行く　考えちみりゃ　欲な話しでんある。そんくれんこつ　センジャ銭も残らん　じゃつたんじゃろう。

淵ん南側ん細道が　エートチット広ぅなったが　それでん雨どま降っち　人通りが多いと泥道になっち　ソゼモスルモンジャキ地がゆるーじ　崩れたり崖くずれも　そんたんび淵やら川に　人も馬もホラケ落てち　怪我したり大事じゃつた。細道ん側にゃ人だけじゃねぇ　牛馬ん災難除け　道中安全の碑もできた。

『指が消しゴム』

石版に石筆じ書いた字に　赤チークん丸をもらうと　そりゅー消さんごつカバンに入れち　帰る子どもたちも　道草くいよると消えちょつた。それでん親は頭ぅ撫でよる。上級生になっち西洋紙に書くと　間違ぅた時どま　消しゴムなんか買うちゃ　もらえんじゃき　指ん先ぃツヅつけち　コスルと　紙と一緒に字も消えたき　そん上ぅ鉛筆ネブッチ　チット濃ゅう字をケータ。

１銭じくるる店と　間違ぅち９枚しかくれん店も　あっちイットキァ子共も悪口言いよった。そん１銭もなかなか貰えんき　消しゴムならん指消しゅ　なるたけセンゴツは　気をつけちよったんじゃが。銭持ちん家ん子は上等ん紙や　紙ばさみも持っちょるき　羨ましかったけんど　こりゃもう貧乏はドシュモならん。とうとう紙ばさみゃ　買うちゃモラエンジャツタ。

ソレデンマァなんとか卒業しちこんだ　高等科に進んだが　今思うとそれがヨカッタンカ　知れんちも思いよる。おおかた人並みイノチキ　しょんぬ見ると　それでん生きらるる。いんにゃモシカスリャ　社会に出ちかるわ　そげんしほうが旨い　生活世渡たりゅうしよる　かん知れんちも思う。

苦労する親ん気持ちが解る　そげな生活環境がやっぱ　逞しゅ人間ぬ育てちくるるから　世の中に出ち来たら　そげな苦労がこきーきち　生かされよるんじゃろう。ヒョカット指先ぃツヅつけち　紙をコスルトそん感触も　やっぱケックシャ　いいもんでんあるんも　あん頃子どもなり苦労した　肥やしになっちょるんじゃろう。

◇◇◇　方言説明　◇◇◇

６１Ｐ　とぎーなった…ともだちになった。アッチ…あって。ガイト…たくさん。ユウ…よく。じゃがそん…ですがその

６１Ｐ　こげな…こんな。とよこい…休憩。そげんこたー…そのような事は。どけか…どうですか。

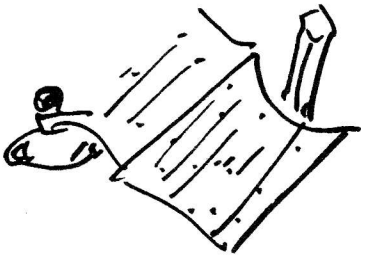
６２Ｐ　ちょうず…運よく。コイサ…今晩。セガウカ…怖がらせる。そうど…そうです。タマガッタ…吃驚した。もんじゃき…ものですから。ねぇど…ないよ。ふんとじゃのぅ…本当ですか。そげーわ…そんなには。どれか…いずれか。たったままじ…立ったままで失礼。ヨコウカ…休憩しましょう。ヒトカルイ…体格に合わせてて。コッチサネ…こちらの方に。いごかして…動かし

６３Ｐ　て。たまらんじ…我慢できず。こちしたき…そのようしたので。ナルタケ…なるべく。イノチキ…生活。シチョルモンジャキ…しているのですから。やっぱ…やはり。へりん…外側の。トガミチーチ…しっかりつかまって。ソレコス…それでこそ。トコルウ…所を。せんじゃ…しないと。じやった…でした。エートチット…やっと少し。ソゼモスルモンジャキ…痛んだりするものですから。

６４Ｐ　ヨダキー…辛くて苦手。ヘモドル…引き返す。ソロソロ…ゆっくりと。チツズツコーナル…少しずつこのよぅに。ノウナッタ…なくなって。

６５Ｐ　石版、石筆、赤チョーク…戦前の学用具。ゴツ…ように。草くい…遊びながら。ツヅ…つばき。コスル…する摩擦で。ネブッチ…なめて。ケータ…書いた。イットキァ…しばらくは。センゴツ…しないように。こりゃもう…生まれつき宿命。ドシュモ…どうにも。ソレデンマァ…それでもとにかく。いんにゃ…いえいえ。モシカスリャ…案外と。ヒヨカット…突然無意識に。ケックシャ…結構。ちょるんじゃろう…なっているのでしょう。方言説明

６６Ｐ　方言説明



五月の詩人たち

★★★　湛水ちはどしちついた　★★★

今かる３００年ほず前んこちなるが　ここらへんな松山と　雑木が　茂つちょつた所じゃつた。てんてんと家があっち　そん周りに畑んある農村風景。久保田ち言う所い　コンメー湛池があっち　えーと飲み水に使うぐれ。まこち貧しい寒村じゃつた。それでん何とか　助けおうち皆んな　イノチキぅしよった。

谷村におった工藤三助が　そげな話ゆ聞くタンビ　何とかしちゃらにゃち　寝てん起けてん思いよった。かぎおの井路を　苦労しち引いた時ぃ　『じゃこんツイデニ何とか』ち　思い巡らせち　芹川をせきとめち　全部井路に流したけんど　一滴も湛水にゃコンジャった。ひれ伏しち泣く姿にゃ　皆んなも同感しちしまう。

三助は井路に　ひれ伏すと神にご加護を　仏に念力をお願いした。ところが水が　ぼりよる、そげな事まじ　ゆう調べたら　えぇとチットズツは　流れでーたか　そりゃもう滴ほずじゃつた。どしてんこれじゃ　話ならんきもいっぺん　岩ん上に座りくうじ　一心に祈願の執念に　浮動明王ん夢枕んお告げ。

踊りを奉納し大岩を焼き　すぐ水をカクル事じ　岩がホラコーなっち　エート鑿が役立つごつ　掘れはじめ何とか　工事がチットズツ進んだそうな。そしち泥水がチットズツ　流れちーた時ん嬉しさは　もう飛びあがらんばかりん　喜び声になった。泥水を神仏に供え　石ん祠を建てち『井手明神』ち　名前をつけたが　今ん湛水神社《現在は合祀されたものも》ん　はじまりのよう。

やんがち水も多ぅ流れち　来るごつなっち　井路を開き水路ん整備もしち美しい水も　流れちくるごつなった。木を切り倒し畑が田に変わっち　みるみるうちぃ田所になった。春一面に水が渡った田を見ち　三助はうれし涙を　浮かべち『あぁ水が湛えた』　たたえ水ち　神に感謝したそうな。

それかりと言うもんな　誰からともねぇ　こくぅ『湛え水』ち呼ぶごつんった。タタエミズん始まり。つまり正確にゃ『タタエミズ、じゃが　いつんなかめーか　『湛水』タマリミズ　ち言うこちなったらしい。昔は文字を読めるしも　少のぅじタマリミズち　いつとはねー呼ぶ　それがもぅ　当たり前ん名前にも　なったごたる。

識者んなかにゃ　本当ん呼び名がいい　そげー思うしも多いが呼び慣れた　親しみやすい　となりゃそれも又　いいんじゃナカロウカなぁ。こん伝説を提供して　くだせそさった方も　辞書にも『たまり』とは　出ないし　由緒のある　呼び方なんしゃが　それかち絶対　悪いち今更変えるのも　と苦慮しちょつた。

習慣は恐ろしいものじゃが　工藤三助が苦労した　水がここまじ　たどり着いた事で　あれこれ揉めては　申し分けない事で　使い慣れた　今の呼び方で　よいのなら　それも又感謝の　気持ちに通ずるのじゃ　あるまいか。振り返って当時を忍び　ご苦労に思いを　馳せるそん気持ちは　絶対に忘れんじ　水神祭りは　チャントしよるんも　なにか微笑ましい。

こん投稿が昭和２８年８月じゃき　あれかるもぅ６０年以上もすげた。今年も無事に田植えが　草取りが《こりやもぅアンマリ見られんが　サナボリ、タウエヨコイ、そしち稲刈り》チ　順調に進んじ早いしゃもぅ　予約ん供出　親戚に新米ん　お接待なんかが　見らるる。

山が高うしち待たるる水が　　岩をくぐっちここまじ来たと
木の葉揺らしち里につくは　　顔を覗かすいじらしさ
三助まつりの涙にぬ濡れた　　三助まつりに揃うた揃うた
里に帰った娘も濡れる　　稲の出穂よりよう揃うた

§§故郷民謡『三助おどり』から§§

◎◎◎　思い起こす　５５年ほず前　◎◎◎

昭和５５年ち言うと　約５５年ほずまえになる。５３年にゃ今市小学校、中部小学校にプールが　完成。町民グランド造成工事もはじまり、大分医科大学が開校。５６年にゃ福宗農道整備事業完成、県道大分⇨竹田線が国道に昇格　４４２号線となる。石合⇨今市間、野津原⇨奥地開発道路の久住線開通。なんかもあっち　えーと道が繋がる地域になった。

そげな頃にほんな地域は　どげじゃつたろうか。ちっとセンギしち見たら　ここ５０年あまりんなかめ　でーぶん変わったな無理もねぇけんど　やっぱ過疎、小子化、経済ん低迷なんかが　苦になり気になるけんど　これも仕方ねえんじゃろうか。ちっと並べサゲーチみたきな。

１月頃にゃ正月はもう　新正月になっちょるき　でん昔気質んしゃやっぱ　アラレ、カキモチゃ　『寒の餅』ち　ペツタンコしよる家も多かった。そりーなんちゅうてん　農家は牛馬を使うもんじゃき　五月どま田の中じ　仕事に追う時にゃ　ドシテン尻べろ叩くき　そん時ぃ怪我ぅせんごつち　『鞭』を作るんを　『鞭焼き』ち言う。それにこん頃は空気が乾燥　水がすくねぇ　とキチョルキカ　火事が多かった。それも人家。山とまぁ消防車が　サイレン鳴れえち　セワシュかったごたる。

今畑、入蔵、吉熊、なんかがおおごとじゃつた。そうそう書き初めしたり　初山ち言うち　山を見ちまわり帰りに　榊、ナンテン、なんかを持っち帰る　じいさんの横顔は　キラキラ輝いちやっぱ年を感じさせんきな　今年も元気じハリコムんじゃろう。

２月にゃ早いしゃもう　下狩りぅはじむる。杉が安ぅなったち嘆くけんどそんまま　ホタッチョイテン　どにもならん宿命じゃ。

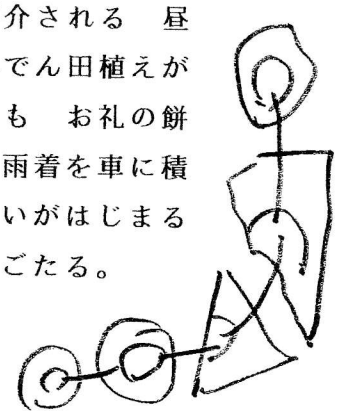
それにまぁ春田起こしななんか　はじまると耕運機ん事故も時々起こっち　気をつけんとなぁ。用心に越したこたねーき。

３月に小児マヒ予防接種が　はじまるが　ふんとヨカラン病気も出たり。油断もならんこちなった。定期的にある春まつりも　ちった肌寒いけんど　太鼓が鳴りだすと　夜更けまじお宮は賑やか。中にゃ神楽を舞いてぇしもあっち　顔見知りだけに　声がかかかるやら　祭りよばれち来た年寄りも　孫ん顔にゃ財布がフンワカと　緩む風景も和ましい。

４月に入るとこんだ　婦人会が敬老者を呼んで　お祝が始まる。花見と並行するだけに　年寄りオンリーじ　思わぬ顔の皺も伸びそう。知事に便りを出す週間があった。身近い要望が多ゆう集まっち　行政ん英知に結びついたよう。新入学、就職と新顔がデビユーする　農村も脚光が光っちょるごたる。

５月になると農繁期に入り　茶摘み、梅ん収穫、タケノコが出まわり　ワラビ、ゼンマイが　食欲をそそり立てる。鯉幟りがヒラヒラ矢車ん　環がお祝いん合図鳴らしよる。吹き流しと真鯉、緋鯉んコントラストが　旨く交差した五月晴れ。幸せな人生双六が醸しだされちょる。

６月ともなると雨が恨めしい　じゃが水不足ん田には　やっぱ雨が待たるる。天水頼みの田んぼじゃ　それこす雨が頼り。『宙に投げた苗がほどいい所に　落ちました　野津原村ではもう田植えがはじまりました』と　ラジオ放送で紹介される　昼のいこいにゃ　忙しい合間にかきこむ昼飯　それでん田植えが済むと　『さなぼり』になる。世話になった家にも　お礼の餅ぅくばり若いしたちゃ　里ん田植えに行くんか　雨着を車に積みこみよる。年寄りは早めに座りくうじ　いっぱいがはじまるが　水ん中ん仕事じダリも　出タンカ酔いが早ぇごたる。



なんぼ水がほしゅうでん　豪雨は困るしソレカチ言うてん干ばつぁ　尚更困ったもんじゃつた。野津原も含めち大分県の　干ばつん大きなもんの記録は　慶雲３年《７０６》，元和５年《１６１９》，享保１４年《１７２９》，明和３年《１７６６》，天明６年《１８０９》、明治２７年《１８９４》、明治３６年《１９０３》、明治３９年《１９０６》、大正３年《１９１４》、昭和２年《１９２７》、昭和１４年《１９３９》、昭和１４年《１９３９》、昭和３３年《１９５８》、昭和４２年《１９６７》。

主な大けな干ばつぅ　並べたんじゃが　こんほかにん小めえ干ばつもあったごたる。じゃき水喧嘩が起こり　水番しよったしがどこかに連れ去られ　たりもした。常磐に座りくうだ　女ごしが水とりきた荒シコに　『オラビタクラレタ』ラ　立ち上がるとイマキュ引きあぐると　ピラッと丸出ししち　『やるんかえ』ち一括に　さすがん荒男もヘニャヘニャ　腰ぅ抜かしたそうな。

６月になると早生ん田植えがはじまる。６月ん中ん日に植ゆると『野辺米』になるち　こん日は植えんじ苗とりしよった。がこん日は人手が揃うち　集めち植えた家もあった。高校じ保育所がはじまり　百姓ししゃ助かりよった。一方じゃ麦刈りしよる片方じゃ田植えち　そりゃまぁ農繁期ん　典型的な縮図が見られよった。

７月に入ると青年団の映画会、ＰＴＡ映画会もあっちこっち。土用ん牛ん日にゃ　ウナギもじゃがタニシも　粉練りした料理が夏ん　栄養補給に一役買いよった。モンテンルパかるん　引き上げ者が夏んさなかに　帰郷したんもこん頃じゃつた。

８月ポリオ生ワクチン投与　大掃除があっちこっちじ　あっち畳バタバタ叩く風物詩。盆行事　町長盃野球大会に盆帰りん　若者も久しぶりん参加。農事台帳調査もありよった。供養踊りん晴れ姿　女らしさもゆう　眺めらるる年頃娘ん　出会いん場でんあった。

９月は婦人会ん慰安会　盆かる区切りん季節　暑さかるチョコット行事ん消化も出来る。そこしょると小学校は運動会　早え子どもは朝晩の遊びに　もう運動会が顔ぅだす。こん前植えた稲がもう背伸びしち　そよそよ。秋ん病気予防に気が許せん。干し草がツボいっぱいに広げ　晩方どま草イキレが　季節う感じさする。

１０月にゃ『お日待ち』行事　農家が米がゆう出来るごつ太陽に感謝する農家ん行事。大元は地主が小作人の　一年間の田んぼ畑を利用しち作った　そん労に感謝する気持ちかる　晩に招いち労をねぎらう　慰労会じゃつた。飲み食い無礼講じ言いたぇことも聞きてぇことも　遠慮のう言え聞けた　特別ん晩じゃつた。

事実すべてを聞くことじ　欠点見出し苦労ん原因　改善余地なんかを　見つけちいい方向に進め　作ってくれた感謝ん一時を　最大限に生かして　さらに農地の高度利用によっち　お互いが豊かになる話合いてでんあった。夜食もよばれ尽きぬ話しと仮眠で　夜明けを迎え太陽を拝み　みやげを抱き引き上げる。みやげが帰るのを待つ　早朝ん家族子ともん喜び。

それによっち小作人も　頑張れるし収穫が多いと　暮れの宴がまた楽しく待たれる。地主にしても土地が生かされ　管理が高度でありゃ収益もさらに　増した働く楽しみのある　人生でんあった地主と小作人の　人情物語てんある。労働の喜びは即収益にも帰っちくる　それがまさにツツロク人生。

１１月は取り入れがぼちぼち　まさに農繁期にはいる。高校ん託児保育所は感謝され　生徒も育児や子どもん　扱いん勉強も出来た。民謡研究家ん加藤正人が　野津原地域じ調査収拾をしたんがこん頃じ　地元ん趣味んあるしたちが　加勢もしよったき　思わぬ順調に進んだ。

□□□　方言説明　□□□

６７Ｐ　コンメー…小さい。イノチキ…生活。タンビ…たびたび。じゃこん…ではこの。ツイデ…よい機会ですから。カクルコトジ…流すので。ホラコー…柔らかに。

６８Ｐ　チャント…詳しくしっかりと。

６９Ｐ　なんかも…なども。センギ…見つけたら。並べサゲーチ…たくさん並べておいて。しよりゃやっぱ…ついてると。なんちゅうてん…なんと言うても。ドシテン…どうしても。そうそう…そのようです。ホタッチョツテン…そのままにしておいても。

７０Ｐ　こたねーき…したうえはないから。ヨカラン…予想以上の。フンワカ…なんとなく。ごたる…ようです。昼のいこい…ラジオの正午１５分から放送の　農家向け番組。さなぼり…田植えが済んだ報告をする行事で　苗を洗って供えた後　世話になった人たちに　お礼のお接待をする。区切りの習わしで終わっていない　家の加勢にも行く事もある。くうじ…落ち着いて。じダッタ…疲れも出たよう。

７１Ｐ　なんぼ…いくら。ソケカチ…それでも。じゃき…ですから。オラビタクジル…叫んでやかましく。ピラット…身軽に飛ぶ。野辺米…葬儀の時に使う準備。タニシ…田んぼにいる貝の仲間…現在はあまり見られないが。。

７２Ｐ　ツボイッパイニ…農家の庭先いっぱいに。どま…には。草イキレ…干し草の独特な匂い。みやげ…家族みんなに心つけのご褒美品。ツツロク人生…物や知恵や心が行き来する好誼の　関係にある人の付き合い。

人間な一人じゃ生きられんもん　支え合う助け合いん心が　損が得にもなり負けが勝ちにも変わる。これが人間哲学でんあるが　どうかすりゃ自分だけが　偉く強く富裕層ち思う　浅儚さが転げだすと　あっと思うまに底まで　止まらない例もありそうじゃ。奢らず。貧しがらず　心は豊かに過ごす事。

１２月はもう米ん出荷も終わっち　庭先じゃ『クンタン焼き』が　紫煙ぬ上らせよる。苗代に使う材料ん一つじ　先の仕事ん事と明日ん事が　いつも同時進行しよるんが　百姓農家でんある。郡内駅伝大会が湯布院⇨大分間じありよった。野津原を舞台にした駅伝な　大分大学がでーぶん前に　野津原⇨大分間を走った。

なんさま起伏が多いき　走るしもヤオネーガ　村中ん駅伝なら今市⇨野津原コース。野津原村んころにゃ　自転車競争もあったが　四辻峠周辺じ走った　健康マラソン大会や　宇曾山マラソン大会なんかもあった。じゃが今はもう　交通事情も悪いし選手の揃えも　困難じ支所周辺の『桜ロード』を　リレー式に走る方法が　取り入れられた。

秋祭りの遅い地域　米すりん残った家なんか　年末節期ん仕事ぁ　農家にゃこれまじち　区切りもなかなか難しいごたる。けんどまぁヤウヂが　皆んなづりサカシュカリャ　由にしちょつてんいいんじゃ　なかろうか。昔しゃ節期ん掛けん払いも　小作米ん納め込みも今じゃもう　見かけんなぁ農家も　自作農家になった証でんある。

５５年も過ぎちみると　経済もかわったし人ん　年令もそんくれ皆んなが　年ぅ重ねたこちなる。町に働く場所を持つ　自然と盆、正月だけが出会う風景。じゃがきっとまた　いい事もあるち信じち頑張りましょう。稼ぐに追いつく貧乏なしち　昔ん諺にもあるきなぇ。病気せんことじゃなぁ。

東京んスカイツリー　６３４メートルで　宇曾山と同じ高さじゃが　こっちん方が高いごたるなぇ。欲目じゃろうが　やっぱ里ん宇曾山な　どっかる見てんいい山じゃこと。寝つかん工面しち今年も　暑い予想ですき無理はせんこと。健康管理に心くばりしち　お元気な日々をお祈りしています。ご自愛の程を。

※　蛇口ゃ閉めるんも程度もん…蛇口ぅテンショムショひづ閉め　それでん水がポトポト。水道蛇口にゃパッキンが入っち　水ん流れを調整しよる。こん時にパッキンが旨い具合に水をストップする。閉めたらんでん　水はそくう潜っち出る。閉め過ぎてんパッキンが　ヨゴージシマウき　そん隙間をすり抜くる。

いつもん感覚じサット閉める　それじパッキンガ『止まれ』ち　言うき水もオズージ　そきー止まるが　ひずう閉めた時にゃ　『よーいこっちべてー隙間』ち　トギぅ呼び集むるき　何のこたーねぇポタリポタリ……。コリュウ『けちん尻抜け』ち言う。

★　町づくりん人たち…城下町《権現中心》かる　宿場町になった野津原にゃ　明治《１８６８》になっち　急速に人が集まった。そん中にゃ大工、鍛冶屋、下駄屋、染物屋、と多種多様化しち来た。江戸期かる続いた　食生活に結びちぃた店が　宿屋と共に広がり　生活にゃ事かかぬようになっち　府内に出るにしてん　客馬車が待っちょつた。

歩いて３里は片昼仕事じ　そげな便利な土地だけに　店が並び他地区かる入った　人たちが共に競い合い　栄えたんじゃろう。人が住み着き神仏とん　関わりあいがやがて医者も定着　町づくりはさらに　進んじ寺小屋　勉学所なんかも出来ち　皆んなが勉強もするごつなった。そしちいよいよ小学校も　出来たきますます　勉強する時代になったごたる。

そん頃まじ木の上にゃ　今流なら中等教育ん寺も　出来ちょつた。き勉強意欲も高まった。大分にも通学し　地元にゃ青年学校、やがて子ども会も出来だした。

§§§　振りの付いた北海越えて　§§§

昭和２４年に大分県が懸賞募集した　引き上げ者を迎える歌の『北海越えて』に　野津原じ振りがついち　小学６年生４人の舞台が東部小学校じ　披露されたんがそん直後じゃつた。当時校長先生と懇意じゃつた　振り師ん勉強したしが　無理に頼んで実行したが　教頭先生なんかは　乗り気じゃなかった。

『お帰りなさい　お父さん　初めて合う日　今日この日…』と４７万同胞がまだ未帰還の頃　南方方面は派手に迎えられてん　北方方面は陰気な状況に　苦慮しち依頼した歌ん完成。妻城良夫ん作詞作曲じ　教頭先生どま当時ん一流振師ん　名前をでえち目を見つめた時　ひやっとしたち言う。

父親、母親、妻、息子ん４人４役を　旨くこなしち　舞台を飾った作法教室。若草子ども会じゃき　物怖じせんじ出来たんかん知れん。『ようこそ　お帰りなさいませ　さぞ辛かった……』銃後ん嫁としち　親子と苦労した間の　息んつまる戦争がえーと終わってん　いつ帰るかわからん　北国えん抑留生活。

両親も　『ご苦労だったすまなんだ　一目みるまじ見せるまじ……』ち　歯を食いしばりながら　頑張ったかいもあった。４番にゃ　『倅よ　あなた　お父さん……』と　家族愛が鮮烈に盛り込まれた　こん歌が振りつけられち　踊ったあん子ども達も　もう還暦すげち　孫抱えるごつなっちょる。

振り返ると『いい思い出になったんで』　大笑いする横顔にゃ懐かしい　貧乏じゃつたけんど　楽しい夢とロマンが　なんか今もヒカット湧いちくるごたる　子ども会時代じゃつたち言う。それだけ心は豊かじ　幸せな頃でん　あったんじゃろう。北海越えては　もう知っちょるしも　少のうなったごたるが』

そ　ソザチン…粗末にして、雑にしていためて、扱いが悪くて。
ソザチヤ……育ったのなら、育って安心、育つまでが苦労。
ソザッチョル……育っているので安心、成果がよい、抜群。
ゾサクサマギリ……多様な時に便乗して、調子に合わせた。
ゾサタン……育ちが悪い、栽培に失敗する、躾が悪くて。
ソザシチ……いためてしまって、折角なのに迷惑かけ。
ソザタチソコノウチ……発育が悪く、間違った栽培で。
ソジユウヒツパル……袖を引っ張って、なにか欲望が。
ソジテン……そざしても、傷めてしまって、傷つけて。
ソジヤキムゲネエ……そうですから可愛いそう、苛めに。

ソシチカル…そうしてから、それから次は、それから後は。
ソシタラ……そうしましたら、それがよかったか悪いか。
ソジイリ……袖に手をいれなさい、冷たい手は袖に。
ソジユウカラギ……袖をからげあげて、袖からげで大丈夫。
ソジチョリヤ……構わないで、知らぬ振りして、疎外して。
ソジスルキ……聞かないふりしい、しらぬがよいから。
ソズルゴタル……傷めるようだから、気をつけないと大変。
ソズルド……傷んだら大変、気をつれないと傷む。
ソズリヤ……傷んだら大事、用心しないと後で後悔する。
ソズルキ……傷むから、傷んだら弁償しないと、取扱注意。

ソズンナ…傷むようだから、取扱いを丁寧に、無理は禁物。
ソゼテン…傷んでも心配ない。傷んだら責任を、怖い商品。
ソゼンゴツ……傷まないように、取扱いに気をつけて。
ソゼタナ……傷んだのは、傷がついたら弁償があるから。
ソゼタンカ……傷んだのですか、傷物は分類して。
ソゼチ……傷んだから、別に分類して、再利用の方法を。
ソゼチカル……傷んでからでは、傷まないように用心して。
ソゼンデン……傷まなくても古くなれば、季節遅れは分別。
ソゼメー……傷まないでしょう、完全に包装してあるから。

そ　ソソコスデージ……そこが一番大事、女性性器こそが大事。
ソソカシイ…あわてんぼう、機転が方向違いに、慌て性格。
ソゾーシイ…うるさい、賑やかすぎて、静かにしたらどう。
ソソライー……手に感触がざらざらする、荒々しい感触。
ソソリタチャ……元気よく立って、直立した姿、凛々しく。
ソソンマワリン……女性性器の周辺の、大切な場所に。
ソソ……女性の性器の呼びかたの一種、上品に聞こえる。
ソダチャワルデン…育ちが悪くとも今は別人、見かけでは。
ソダタニャ……育たないと、成長してこそ価値もある。
ソダッタ…育っています、うまく成功した、予定とおりの。

ソダッチョル…育っている、栽培方法が上手、成果がよい。
ソダッチャル……育ってみせる、育たないと申しわけない。
ソダトウドチ……育たないと、頑張って成長したので。
ソダネーカ……そうじゃないですか、そうと思います。
ソダッタンカ……育ったようで、育ってよかったと思う。
ソチャコチャ……あっちこっちに、散乱している。
ソチョリャ……そうしていると、その中間に、その間に。
ソチヨランデン…そうしていなくても、そんなにせずとも。
ソチデン…そちらでも、そちらの方でも、あなたからでも。
ソチドマ…そちら様が、そっちの方なら、そちらの皆さん。

ソチカル……そちらから、そちらの方から、皆様の方から。
ソチマジャ…そちらの方までは、そちらの人は知らないで。
ソックリゲール…そっくりかえって、逆とんぼりに倒れて。
ソッポミーチ……他のほうに向いて、知らぬ振りして。
ソツンネーゴツ……入念な交流に、万事間違いないように。
ソッコター……そことは、そちらの方とは、どちらの方で。
ソツデン……そのようなことでも、そんな事であっても。
ソッチデン……そちらでも、皆様の方でも、そちら。
ソッココスリャ……あらましでも、雑な取扱いでも。

そ　ソッチズリ…そちらの方に、貴女の家に、行くと言っている。
ソツチンホウ……そちらの方向、貴方の方に、行く予定です。
ソデマクリャ……袖をまくりあげて、袖が汚れないように。
ソデンシト…そっと心づけして、暗黙の差し入れ、悪質業者。
ソデマジャ…それまでは、そこまでしなくても、限界もある。
ソデチョリャ……傷んでいるようで、古くなって傷みが。
ソデタキ……傷んでので、傷みが激しくなったよう。
ソデジコス……それでこそ話に、やはりそうでしたか。
ソデクチャ……袖の口がひどく傷んで、目立つ場所、清潔に。
ソトズーニ……外の人には気配り、外の人たちにはいい顔。

ソトカルミリヤ……外の人が見ると、内では鬼か、二つ面。
ソトンコモ……他所にいる子どもも、よその子どもたちも。
ソトズロ……外の人には笑顔、内の人には夜叉、二つ面。
ソトベッピン……着飾るが心は、見かけによらぬ不清潔。
ソトンジョ……外ばかりに、外見はよいが、内心は粗悪。
ソトベロ……人側は美しいが、見かけ倒し性格、油断ならぬ。
ソトジュウ……外ばかり飾る、見かけ倒し人格、見かけは。
ソナワリャ……全てが整うと、万人向きの性格、高貴な精神。
ソナエチョケ……供えておきましょう、備えあれば安心。
ソナイチュウニ…供えなさいと、供える準備、備えた気持ち。

ソナエタケンド……備えたのですか、供えて待つ祭り。
ソナエテーガ…供えたいのですが、供えるには、備えの手順。
ゾニンナラン……どうにもならぬ状態、荒れ果てた被害地。
ソヌルゴタラ…曲がって行くよう、曲がった狙い、苦手意識。
ソヌルソベ…曲がって行く側で、失敗が見られて。失敗露見。
ソヌリャモウ…まがったのなら、失敗は取り戻し、反省材料。
ソヌルモンジャキ……曲がるものだから、狙いの失敗が発見。
ソヌルカン……曲がるかも、曲がりを承知で、それも発見。
ソヌンナラ……曲がるのなら、次の手は真っ直ぐ打法で。

そ　ソブハワケ……側をはわいて、側をきれいにしましょう。
ソブカザレ…側に飾りをつけて、回りをきれいにしましょう。
ソブンナワリー…わけてしまうのは考え物、そのままが奇麗。
ソベクリャアマユル…側にくると甘えがでる、甘やかし悪い。
ソベオラニャ……側にしないと危険が、よく見ていないと。
ソベマジキー……側まで来ていれば、側にいると安心する。
ソベコスイイ……側ならばこそ安心、側にいて遊んだら。
ソベドマ…側にいればこそ、いたずらしても、心配ないから。
ソベオイチョケ……側においておけば安心、側で遊ばせて。
ソベキチョレ……側に来ていなさい、そばなら安心出来る。

ソボユーシヨケ……側をよく整備して、側を奇麗にしなさい。
ソボミヨレ……側を見て心配ないか、側で警護して心配なし。
ソボサガセ……側をよく捜して、足もとを捜すのも。
ソホセンギ……側をまず捜してから、近くにある事が。
ソボマジヤミタカ……側もおめたのですか、閉店が多くなり。
ソボマクカ……蕎麦を撒いて、蕎麦栽培のはじまり。
ソボクル……側にくるので迎えて、側なら心配ないから。
ソボマツチヨリャ……しぼんでしまった、空気が抜けたのか。
ソボスンナ……蕎麦は食べたくないから、蕎麦はあいたので。
ソマルメードチ……染まらないように、染まらぬ用心を。

ソミータンカ……スワムク…咳き込んだので、咳が高まって。
ソミーチイウ……染めたらと勧める、染めてはどうですか。
ソミチョキャ…染めておけばしばらく着られる、染め代えで。
ソムリャコス……染めておけば、そめたので再利用。
ソムルニャ……染めるのには、染めて役立つならば。
ソムルゴタリャ……染めるようなら。染めておけば役立つ。
ソムリャイイ……染めて役立つ晴姿、再利用も助かるから。
ソムカンナ……咳こまないようで、スワムカナイヨウ。
ソムルゴツ……染めるように、染めて使えば、勿体ないから。

そ　ソメタンナラ……染めたのなら、染めたようですから。
ソメモンナ…染物は、染めに出すのなら、染めにしましょう。
ソメンデン……染めなくても、染めは無用です。
ソメチョケ…染めておけばよいのでは、染めたがよいのでは。
ソメシメー…染物の終わりです、そめるのにはもう終わりに。
ソメラルル……染められますよ、そめてもよいので。
ソメテーノー……染めたいのですが、そめてもよいのですが。
ソメタチ……染めたとしても、染めてみたとてどうにも。
ソメテン……染めても染めなくても、構わないけれど。
ソヤケンド……そうですけれど、それはそうだが。

ソヤマア……それはまぁまぁ、そうでしたか、そうならば。
ソヤソウジヤ……それはそうでしょうが、そうなのですか。
ソヤジャロー……そうでしょうね、そうと思っていたが。
ソヤノウ……そうでしょうなぁ、そうと思っていました。
ソユードチ……そう言うと思っていました、やっぱりそうで。
ソユートン……そう言うのではと思って、そうでしょう。
ソユウチオモウ…そのように言うとおもう、多分そうでしょ。
ソユリヤイイ……添えたならよいのでは、添え物に効果が。
ソユラルリヤ……添えられるものなら、添えてこそ役立つ。
ソユンナ……添えなさんな、添えなくてもよいので。

ソユーカノ……添えましょうか、そえたが品がよい。
ソユードチ……そえましょうと思って、添えたが効果的。
ソヨカジュ…そよ風が快い、そよ風の季節に、そよ風楽しい。。
ソットシチ……そっとしておいてください、そっとするのも。
ソヨッタナ…少し静かになったようで、少し落ち着いたよう。
ソヨユリュ……静かになったので、そっとしてあげて。
ソワレン……添われないから、添えても無理なようで。
ソワンカン……添わないかも、添わないが無難では。
ソワレチョケ…添われておけば万事、添われて幸せいっぱい。

そ　ソワンコター……添わないことは、添わなければ従うから。
ソワルリャノヤ……添われるものなら、そわれるのなら。
ソワンカン……添わないかも、添わないほうが強いよう。
ソラニモコマル…よく似たもので迷惑、よく似て便利な時も。
ソランゴツセント…剃りすぎないように、そり返ると危険で。
ソラルリャアブネ……剃られると怖いから、反られてホット。
ソラスンナ……反らせると危ないから、剃らせたのはよいが。
ソリシテン……それにしても、そのようであるなら、大丈夫。
ソリュイヤワリー…それをいうちゃ悪い、それは他言にして。
ソリャトテン……それはとても喜ぶ、それは黙った方が。

ソリャチガオウ…それは違うのでは、それは間違いと思うが。
ソリャマァソウジャ…それはそうと思うが、それは正しいが。
リリャソウデン……それはそうであっても、それなら早く。
ソリャミタカ……それ見なさい、やはりそうでしたか。
ソリャソレナリ……それはそれで、それだけは知っていた。
ソリシテン…それにしても、それであったのなら、分かった。
ソリヨウチ……剃りあうのも、反りかえった時の成果は。
ソリュミリャ……それを見ると、やはり見てよかったと思う。
ソリャソウト……それはどうなった、その結果はどうでした。
ソリャマァ…それは大変で、それから先は、結果はどうです。

ソルミチョル……それをじっと見つめて、最後まで見ていた。
ソルチシヨル…それと分かっていて。それが違っているのに。
ソルイヤワリー……それは他言無用に、それは内緒にしたが。
ソルースンナ……それは禁止して、それはやめたがよい。
ソレナライイガ……それならよかったが、それでよいと思う。
ソレナリニシヨ…それなりの結末で、よい結果になったよう。
ソレグレ……そのくらいのことは、そのようならよいが。
ソレデン……それでも未練が、それが結果だったの。未解決。
ソレシカ……それだけなら、そんなことなら、それでよいか。

そ　ソレコス……それこそ大変、それだから心配、それが理屈に。
ソレデン……それでも行く、それだから心配、それなら安心。
ソレジャ……それならば、それなら行くことに、お先に失礼。
ソレニシテン…それにしては手回しが、機敏性があっち負け。
ソロチョリャ……揃っているので、意見が多く出るようじゃ。
ソロット…こそっと忍び足、黙って戻って来た、黙認したが。
ソロソロ……ぼちぼちはじめましょう、早くしないと遅れる。
ソロベクソウロー…何か意味が分からないが、無責任でいい。
ソロットシチ…黙っていても、知らぬが仏では、知らぬ振り。
ソロバンジ…そろばん勘定は間違い無し、ごまかしは怖いよ。

ソロタチイウ……揃ったのなら、揃ってはじめれば一番よい。
ゾロゾロ…大勢がやってきた、賑やかな何事、落ち着かない。
ソロタンカ……揃ったのなら、はじめてすすめましょう。
ソンママ……そのままにしていて、準備しますので。
ソンシモ……その人たちも、暇を持て余して、余暇の利用は。
ソンクレンコツ…そのような幼稚な、誰にもできないのでは。
ソンシチ……損した後は儲けもある、損して特を貰う。
ソンゲムキャ…そっちに向くと、こっちが見えない、方向は。
ソンツマリヤ……その結末は、解決に手間どる、少し待って。
ソンサキヤ……その先は真っ暗、明るい日ざしも、先方不明。

ソンクレンコタ……そのくらいはお茶の子、簡単謎解き。
ソンシタンド……損して儲けを貰う、損も儲けの始まり。
ソンゲサネ…そちら方向に、そちらに向かいます、すぐ行く。
ソンハズジヤ……そのはずですが、決まった通りにする。
ソンジュソコラ……そこらあたり一面に、周辺一面。
ソンシャ……そのひとは、そこにいる人たちは、家族です。
ソンシドマ……その人たちは、そんな連中は、そのグループ。
ソンガキニヤ……その悪坊には、悪者扱いするわりには正直。
ソンクイ……異物を刺さり踏みつけ、素足に異物が刺さって。

18038

◇□△　方言の広がり　△□◇

方言単語だけの欄に　続編№１１号かる　始まった古くからの生活用語『方言単語』も『あ』の項かる　『』の項まじが　こん回に入りました。計が１８０３８語になりました。こん続きがこん後に　『た』の項としち　始まります。続編№２３号に載るんが　途中までになるが　引き続いて　続編№２４号にも　続いち掲載します。てお楽しみに　ご愛読くださいませ。

いつものようですが　必ずしも方言じゃ　ないかも知れません　又卑下した言葉　差別用語　なんかも入りますが　これは方言集の性格上ですので　ご理解ご了承ください。おそらく『わ』の項の『ワ』の　頃には総計５００００語くらいかもでも今記録に残せて　よかったと思います。すでに死語になった方言　全く使われない方言など　消え去る運命の　言葉もあるからです。でも反対に東京でも　使われている　そんな方言もあって　輝いています。

た　タアラセ…田んぼの荒れた部分、田んぼがあれて見られない。
　タアラシヤコマル…田んぼが荒れたのは困る。みすぼらしい。
　ダアレン…誰も相手に、人はほとんど相手に、見捨てられて。
。　ダアリャ……だれでしょう、誰の事なのか、疲れたので。
　ダイナリショウナリ……大小さまざまに、多かれ少なかれ。
　ダイー…疲れてしまった、疲労が激しくて、どうにもならぬ。
　ダイヒイ…御輿の先方を行く御弊、役が目立ってすばらしい。
　ダイチク……抱いてゆくので、抱いて楽しむ時はしあわせ。
　ダイチョケ……抱いていなさい、抱いてください子守役。
　ダイチータ……抱きついて安心、抱いてもらってほっと。
　タイチクウ……炊いて食べる料理、炊くことで食べられる。
　ダイバラシ……長い荷物で台を長く使う方法、利用価値が。

た　ダイショアルキ……嫁の里に帰る行く、里歩きん楽しさ。
タイテイナコター…だいたいな事は、なんでも出来る重宝者。
タイチャレ……炊いてあげなさい、炊いてあげたら。
タイシタコタネ……大事でもない、吃驚すんほどでもない。
ダイチク……抱いてゆくがよい、抱いていれば安心する。
ダイコマキ……だいこんを撒く、だいこんを栽培して。
タウユウスル……田植えをしのますから、たうえしないと。
タウエン……田植えの、田植え作業が忙しい、農繁期になる。
タウエンダカイ……田植え間の牛馬の世話、牛馬が大切で。
タウエウマカタ…田植え作業の馬使い、田植えには馬の役割。

タウエナカトリ……田植えの植えつけ紐引き、紐で印をつけ。
タウユーシュ……田植えをしましょう、田植え時期になって。
タウウセ……田んぼからの荷物運び、田んぼに荷物を。
タエネエ……なにか楽しみもない、刺激がなくてぼんやり。
タエチョリャ…絶えてしまったので、枯れてしまったようで。
タエジ……なくなってしまったので、補充をしないと。
タエチ……消えてなくなった、なくなってしまったよう。
タエメー……なくならないだろう、なくなる心配はないので。
タエラカ……自慢話がおおきいが、自慢がどこまで通用。
タエンゴツ……絶えないように管理、なくなってからでは。

タエルリャ……たえらりるのなら、我慢できねものなら。
タオヨコワシ……田んぼもまには休ませて、休耕田にして。
タオセル……たんほを整地して、田んぼを平らにする。
タオルル……倒れたのなら、たおれては大変で、無理は禁物。
タオヨコタクリ…田んぼを横切って走る、田んぼがいい場所。
タオレン……倒れないから、たおれるまでは、たおれたら。
ダオオウ……牛馬を追う、牛馬を上手に使う、駄使いが上手。
タオマシヤ……田んぼをまして、増産はよいが労力が。
タオシチヨケ……田んぼの仕事をして、田んぼ作業が待って。

た　タオルリャ……倒れたのなら、倒れたらしい、やっと倒れた。
タオマウ……田んぼを回って、田回りして水を管理、水見て。
タオレテン……倒れたのなら、たおれたようですから。
タカガ……たいしたことのない人の、意外な人のことなら。
タカンコ…とんびが生むとは、珍しい存在の話、考えられん。
タガガ……桶の輪が緩んだので、桶の輪を換えないと水漏れ。
タカハリャ……祭りの高張り提灯、祭りにつきものの提灯。
タカガシレチヨル…大したことはないから、当たり前の事で。
ダカレテーナ…抱かれたいような泣き方、甘えが覚えられて。
ダカルリャ……抱かれたのなら、お前もほどほどにしないと。

タカムリャ…気持ちが高ぶって、意欲を高めて、気合を入れ。
タカメチョケ…高めにしておけば、高くしたほうが都合よい。
タカラルリャ…無理に言われると、分かっていても仕方なし。
タガシミー……桶の輪を絞めて、丈夫にしておかないと。
タカメ……高めにしておけばよく見える、高めなら無事だが。
タカセチ……炊きながら時間調整、炊いていると覚えるもの。
タキナー……炊いてくれたら助かる、炊き方が難しいもの。
タキモンヌ……焚物を集めてはじめよう、薪集めから仕事。
タキツキュ……炊きはじめに燃やしつけを、着火準備から。
タキグチュ……燃やす炊き口は奇麗に、火は神聖なものです。

タキツケチ……燃やしつけてからは用心を、燃えだしたら。
タキモンジ……薪でこんがりと、薪料理は熱処理がよいから。
タキダシ……炊き出したら、救援料理教室、非常食の応援。
タギリ……興奮状態、沸騰しばじめたら、爆発気分の怒り方。
タギル…興奮した状態、人の意見が聞けない、勝手気ままな。
タキャ…背たけは、背の高さを計って記録する、高い背の人。
タギッチョル……興奮して言うことも聞かない、手前勝手な。
ダキグシュ……抱き癖がついたので、あまやかしが迷惑に。
ダキタカリャ……抱きたいのなら、抱いてもいいが甘えて。

た　タクナッチョル……苦しそうにしゃがみこむ、うずくまって。
タクナロウジョチ……うずくまってしまいそう、大丈夫なの。
タグッテン…手繰り寄せても、引き寄せて見ると、引き寄せ。
タクケンド……炊きますが、たいていますが、炊きますから。
タクラレチョル……騙し取られている、知らぬ間に取られて。
タクラルリヤ……騙されてうっかりして、しまった遅かった。
タクネチ…ごまかして、騙し取って、うまくごまかしたので。
タグケーチ……ねんざして、ねんざで傷めたよう。
タクキ……炊きますから、たくので来てください、炊飯開始。
タクソベ……炊いている側で見学、炊く事の勉強を。

タクヌー…炊いているのを、炊く方法を習って、炊事の基本。
タクチ……炊くと連絡が、炊きますから集合。
タクンカン……炊くかもしれません、炊くことに決まった。
タクジヤロウ……炊くと思いますから、たくと連絡も。
タクヤ……炊くのですかそれは、楽しみにしています、期待。
ダクット…あっさりと切断、歯切れのよい裁断、切り口見事。
ダクダク……歯切れのよい音、手早い調理の達人、霜の朝。
タグケータ……捻挫して苦労している、捻挫の治療に。
タグアラエ…肥桶を洗って、肥桶は使ったらすぐ洗うように。
タケナワン……竹が縄の代わりに使われる、強い利用方法。

タケナオ……竹で作った縄で利用、竹の使い方で縄の役割。
タケモンニナル…高いものになるときも、貰えば高いものに。
タケタゴタル……炊けたようすから、炊けましたので。
タケタナァ……たけましたので席について、食事の準備が。
タケンポンポ……竹で作った入れ物、竹を利用した容器。
タケンポツポ……竹を生かした入れ物、竹が入れ物に変身。
タケヅツン……竹のいれものに花が一輪、竹の筒に入れた花。
タケモタ…竹はもとから割ると割れ難い、先から割るが理想。

1925

100
M

★★★　あれから２４年　月日の立つのは早いもの　★★★

方言調査に『とりくんだらドゲーナ』ち　話しかけたんがもぅ２４年も　前んこちなった。『ヨダキーケンド』　アゴヒゲぅ撫でちニコッと笑う。それヨリカズット　前に話はタンビタンビ出よったし文化協会も　総会じ『やろえ』ち　話がトントン拍子やるハズジャツタ。が　そうはいかんもんじゃ。

会長が《当時》文化財調査委員じゃき　今なら話がデーブンと聞き取るるき機会は　ドンピシャジャツタガ　ホンナち取り組むちなると　やっぱ勇気も度胸もいる。ダレドウガするな、断わられドモシュウト　もうペシャクコに　なりかねん。『じゃなぁ　やっぱ難しいごたるなぁ』　それじまた立ち消え。

そうこうしよったら　平成ち言う時代になった。『もうヨダトウエ』『ジャナ　スルカナ』　簡単にする　出来るんならもう一番いいこつ。じゃが誰が　どけな方法じ　いつかる　スルンナち　立ち止まった。『ちょいと加勢せんなえ』『あーいいで』一番手に乗ったんが　何でも出来ち器用人。

『ここかる手繰り寄せち　話が弾むと案外集まるんじゃ……』たまたま委員会ん日に　『こげなふうじ　加勢すると』　ちった嘘もあったが　大きぃめに言うち　謎かけたトコロガ　『ヤリマショウ』になった。春先ん気持ちもいい気節　田んぼにゃもう田植え準備ん水が　ガイト入っちよるし　なんか幸先がいいごたる。水が取れたら何か　ユタットナル　不思議なもんじゃなぁ。

３人揃うたところじ『今年かる取り組みしゅうえ　いつまでんホッタラカシ　シチョクト　ほかんしどうが　やりだすと　勿体ねぇがえ』『ありゃまぅ　そげんこたーなかろう　けんどなぇ』話がナンカシランガ　調子がヨスグリャセンカナァ』

３人寄れば文殊の知恵とか　スンナリット話が弾む。ここじモウ内緒に候補者を出えち　みりゃどげーかな。それがいい善な急げじゃき。皆話がゆう解るもんじゃき　１０人ほず出たんが　ホボオナジ想いん人ばかり。以心伝心たユウ言うたもん。とりあえず８人決まった。『あんたどうは抜けなんなぇ』

爆笑が響くもんじゃき　事務所んしども何事かち　チラリ覗ききたがショワネエゴタルキ　ヌキアシじ引き返した。ほんな後ん７人にコイサマジ　当たっちよかりゃもう　それじ行くこちしゆうになった。今考えちみると　そげな機会にもうナッチヨッタ　そげな想いも回想さるる。

独りは健康の都合じ無理　独りは加勢はするからと　７人が決まり間をオカンジ　打合せ会を始めました。『それまでに解る範囲ん方言ぬ　書き抜いて持参しちょくれ。そん時に寄った方言が　４５０語あっち　重複したんもあったが　とにかくスタートしたな間違いねぇ　数字じゃつた。

『こりゃいいんじゃねぇ』『ひやっとしたが　やっちみると尾も黒いごたるなぁ』　『そん調子じ集むりゃもう上等』で『ご苦労じゃけんど　気楽にやりましょうよ』『こげんことじなぇ　よかりゃかてちょくれ』　『とにかく方言じのうでん集めち　皆んなじ選別すりゃいいき　何も心配いらんので』『たまがった　食いつかるるかち　思うたが世話ねえな』

選別して重複やら　方言じねぇのなんかを　分類しち３００語あまりん　第１回収拾は見事に誘い込まれた。次まじまた『書き貯めち持っち来ちょくれな』『会費がいるんじゃねぇ』『そりゃまぁまた打ち合わせん時に　　決めような　あんまり銭は出さん　使わん工面じ行こえな』『それがいい　じねぇと変な風に誤解されたんじゃなぇ』『そげしゅうえな』

方言集続編№２３号《通算３３号》までの　力戦奮闘した素人集団。それまでの約２年半に　コピー取りしながら　一気に発行出来たのが　平成７年３月で『前編』を　中央公民館の皆さんのご支援で　ほんの５０ページ冊子。印刷インクの匂いが歓喜に。関係機関などにも謹呈　あっと思う間にシマエタき　応援しちくれち２版を追加印刷。すでに後編も編集済みじ　１０月にゃ一気に『前編』『後編』　調査収拾で記録した『こぼればなし』も合わせて発行した。３冊セット箱入りじゃつた。

時あたかも野津原町『町政施行４０周年』　そりゃまぁめでたい年んタイミング。記念冊子にち話すと　町からも支援しちゃるになった。感謝感激じゃつたき　それなら必要分だけ貰って　あとは全部記念号としち　そっくり謹呈するこちなった。町でも更に増刷の上祝賀会のプレに　利用することになった。

平成１１年からは表紙も色紙　方言集続編として　毎年１回の限定１００冊で継続に。この間に小学生向けの『優しい方言ガイド』　なんかも発行しち謹呈。方言単語も１２０００語が入った。１５年３月にゃ『方言単語集』として『前編』『後編』の　２冊を発行　１２月にゃ　『方言単語追加編』も　発行した。ここまじ進んじ１５０９０語　どうやら取り組んじ　よかったち自負もシチョリマス。

１６年からは１０ほどんジャンルん　別に方言単語を分割しち毎年チットズツ入れ　２０年版にゃそれもほぼ終わった。こん間にゃジャンルごと案内に　色紙を挟んじ見つけやしい　冊子に変身しちくれたごたるです。２１年からは今までん　方言単語全てを更に『あいうえお』順に　毎年分割しちいれよります。

平成２８年１０月まじん　分割じ入った方言単語ぁ１５３８６語。１つでん５つん意味もある　ソゲナンモあります。

こげえに苦労はあるけんど　まぁまあ進みよったが　少ねぇ会員の重鎮が３人も逝去。独りは故郷に引き上げち　残った４人がそれぞれん　個性をし生かした活動を　繊細に続けちこんまま進んじ行くと　ヒョイトヌリャ単語　４５０００語ぐれにゃ　なるんじゃアルメーカ。

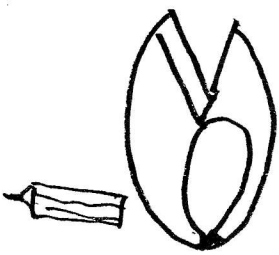
もっとも一つん単語でん　意味がいく通りもあるき　そりゅー全部を書き並べちゃるき　トテン賑やかになりつつある。一つそん例を見てん　　『いいで』ん場合⇨ヨイデスヨ、ジユウニシチ、ヨカロウカラ、ナカメーハイロウ、タバネル縄　などがある。聞いただけじゃ誤解されやすい、意味が判明しにくい。

じゃが相手を思いやる　情愛がそげなんぬ　解決するのもある。上記ん場合『いいで』は　非常に無責任な返事なんじ　はっきり言い切らないと誤解が生じるが　相手ん情愛がはいれば　思って聞いた返事なら　４つはお任せとなる。が相手も受けた以上は責任を　持ってくれると思う。

『いいで』　にゃ賛成と　無用です　とのアイハンスル意味があるき　早合点すると結果に　とんでもない事が起きる。そんな単語をほぼ全部が入っています。ので数は膨大になります。それがまた古い生活用語でも　あるんじゃろうなぁ。心が中に仲介しちくくるき　心配ねぇイノチキも　出来たんかん知れん。

平成２４年からは　ご愛読者ん希望が多いき　年２回発行にしち　出来るだけ早く皆様に　おとどけ申したいと思います。ので引き続きご愛読のほど　お願い申します。

この頃ん話じゃが日本人と傘　毎年１億３０００万本発売じ　透明な簡易傘が８０００万本とか。最近な丈夫な傘になっち　長ぅ使われるごたるき大事に　してーもんでんある。



『ちょいと買い物んに行くけんど　こん前言いよった笠いる』いっとき考えよったが　忙しいのに返事がねぇ。と　突然『よかろう』　『解った』　バズが滑りこんだき　フガユウ乗れた。

こん時じゃつた　『はて　よかろうは』ち　思案がはじまったんじゃが。自分がんぬ買うと　迷うたけんど　『いいなら　家じ使ぉう』ち　2つ買いマテヨ。　相手が気が通じあうんなら　もんくはなかろうが　変わり者じゃつたり　天気者じゃつたり　色ん好みと違うと　『よかろうち言うたこと』　一蹴されちしまう。

気持ちがわかったしなら　折角買っちきちくれた　ちっと好みじゃねぇが　貰わんと済まんち　気を使うもんじゃ。『よかろうち　言うたに』じ　終わりになる。『いいで』『よかろう』にゃ二つん意味があるき　用心に越したこたねぇ。『いいで』にも『よかろう』にも　二つに使える意味がある。

信頼しあっておれば　問題はないし　かりに気を利かせた買いでん　『いいで　どうせ使うもんじゃし　こん色好きじゃわな』となる。そげー言わるりゃ　『はい　夏　見舞いにあげるで』『りゃー悪いなぁ』ち　こんだ次ん機会にゃ　思わぬお接待もあるもん。これこす『つつろく人生』　ジャロウ。

『する』『さする』『してんいいで』　変に考えると　可笑しく聞こえるかん　知れんがそりゃー　本人がそげな憶測があるき聞こえ　響くんじゃろぅ。言葉には　ほとんど陰陽な意味があるが　じゃき親しみ安く　面白く情愛がこめらるる。場面によっち意味も全く　異なるこちーなるき　場所相手によっち　上手に使いわけんと　信頼問題にも発展する。

そげな方言を調査収拾しよると　人間の赤裸々な生活が　浮き彫り悲哀も感じるが　相手を大事にする真心は大切ち思う。。

８９Ｐ　ドゲーナ…どうですか。ヨダキーケンド…いやだけれど。それヨリカズット…それよりもはるかに。もんじゃ…ものです。ドンピシャ…うまく行き。キシナ…きてすぐ。ダレドーガ…誰たちが。どモシュウト…とすれば。ペシャンコ…つぶれてために。ヨダツト…はじめると。ジャナ…ですね。スルンナ…はじめるの。ガイト…たくさん。ユタットスル…ゆっくりと。ホッタラカシ…そのままにして。ナシカシランガ…なでかしらないが。

９０ｐ　どげーかえ…どうですか。ショワネーゴタル…大丈夫なようで。コイサマジ…今晩までに。オカンジ…すぐに。たまがった…びっくりした。いるんじゃねぇ…必要なのでは。そりゃまぁ…それはまた。

９１Ｐ　シマエタキ…おわったので。ミチョリャコス…見ていればこそ。ジャンル…項目別。チットズツ…少しずつ。ソゲナンモ…そんなものも。

９２Ｐ　ヒョイトスリャ…もしかしたら。アルメーカ…あるまいか。トテン…とても。ヨカローカラ…よいでしょうから。ナカメーハイロゥ…仲間に入れて。イノチキ…生活。してーもんでん…したいものでも。

９３Ｐ　フガユー…運よく。いったに…言うたのに。つつろく人生…人間行き来するから生かされる。ジャロー…でしょう。そげな…そんな。

太陽の前を金星が通過する　高さ６３４メートルの電波塔完成など　日本でも４年前には　画期的な話題が豊富にあった。オリンピック開催があり聖火が　ギリシャから会場まで　リレーされるが内容が豊富になり選手も　若返る進歩の世代になった。高齢化社会どこまで進むか　方言も記録の仲間入りして残したいものです。

☞☞☞　方言のちらばり　☜☜☜

野津原じ古くかる使いよる　生活用語ん方言じ　日本各地でん使いよるんがデーブン　あるもんじゃき　コンダチット　並べちみました。タマガルゴタル　のやら『ふふーん　ジャナァ』ち思うんも　ケックシャ　あるもんじゃわな。北ん方かる始めヨウカな。

北海道　カテル…中間に入れる。トーキビ…トーキビ。
　　ワヤ…無茶。だめじゃつた。
青森　アンベ…具合は。ドモ…あげども。
宮城　ソダス…傷める。
秋田　アンベワリ…都合悪い。マメ…元気。
山形　ホヤ…電球。
栃木　マネル…告げ口する。モヤイニ…一緒に。
群馬　カテル…合わせる。ヘズル…削る。
埼玉　キビショ…急須。ジョーリ…草履。
東京　オチャオケ…お茶おけ。オツモリ…酒がなくなり。
　　コギタナイ…薄汚い。ノッケニ…はじめに。
神奈川　モヤイデ…一緒に。ロクスッポ…不十分。
新潟　コビリ…こびる。ソロット…ぼちぼち。
長野　ダレドウ…誰たち。ホイジャナ…それではな。
山梨　カジル…ひつかく。トブ…走る。
富山　キノドクナ…申しわけない。
石川　カヤル…転ぶ。
福井　オオキニ…感謝。コソバイー…くすぐったい。、
岐阜　ウムス…むす。セフル…ねだる。
静岡　ジルイ…やわらかな。セセクル…もてあそぶ。
愛知　トブ…走る。
三重　ツイデ…他の用事に来て。
滋賀　コラエテ…勘弁して。ノーナル…なくなる。

京都　アマエタ…甘える。イキシ…行くとき。ウチ…私。
オテショ…小皿。キビショ…急須。ノク…どく。
シマツスル…片ずけ。ナオス…しまい込む。タク…煮る。

大阪　マイッベン…も一度。ボチボチ…ゆっくり。ホメク…蒸す。
オオキニ…ありがとう。オカン…母親。ズボラ…無精。
ドンナラン…どうにも。ナオス…しまう。ナンボいくら。

兵庫　イゴク…動く。イラウ…さわる。オトンボ…すえっこ。
コソバイー…くすぐったい。ジルイ…柔らかい。
タボウ…ためる。ツクネル…こねる。ホナ…さよなら。
ホメク…蒸し暑い。ホロセ…ジンマシン。

奈良　イッケ…親戚。オトンボ…末っ子。コスイ…ずるい。
サカムケ…爪の付け根がむくれる。ツカエル…混雑する。
ドヤス…殴る。ネキ…側。

和歌山　オオキニ…ありがとう。ホイタラ…そしたら。

鳥取　ショノム…ねたむ。ニジクリツケル…塗りつける。

島根　オンキナ…安心な。アバカン…あり余る。シオハイー…
塩辛い。クジ…苦情。バンギ…夕方。

岡山　オラブ…叫ぶ。セワネェ…大丈夫。マン…運。
ノーナル…なくなる。テゴ…手間。て

広島　イヌル…帰る。オラブ…叫ぶ。カタグ…担ぐ。クジュクル
…むずがる。クワイチゴ…桑の実。ダンタン…次々に。
ツマラン…だめ。ドロオトシ…田植え休み。ボーブラ…
かぼちゃ。ムカワリ…一周忌。

山口　キビル…たばねる。サデコム…かき集める。シカブル…
もらす。スイバリ…木のとげ。ネキ…側。ビッタレ…無精
者。ヘンジョコンゴウ…逆らってつべこべ。マメ…元気。

徳島　インデクル…かえってくる。末っ子。センゲリ…次々と。
チョウズ…便所。ハジカイ…痛痒い。ヒコズル…引きずる
。ヒダルイ…空腹。

香川　ジルイ…かるんでいる。デキアイ…あり合わせ。セラウ…
妬む。

愛媛　イイエナコト…とんでもない。オッポ…おんぶ。
イブシコブシ…こぶこぶができて。キナイ…黄色。
クジクル…不平を言う。ゴクドサレ…ごくつぶし。
シャグ…つぶす。ショウケ…ざるなど。
タイタイ…魚。ネキ…すぐそば。ビンタレ…だらし
ないかっこう。ヘンジョコンゴ…理屈を言う。
メンドシイ…恥ずかしい。

高知　オンボ…おばれる。トギ…友達。ハグ…むく。
ヘチ…見当違い。メッソ…あまり。

福岡　カルウ…おんぼ。キビル…束ねる。ツマラン…だめ。
ナンカカル…よりかかる。ヒョクット…突然。
ヨコウ…休む。

佐賀　オラブ…叫ぶ。タマガル…びっくりする。デケン…
できない。

長崎　イッチョン…少しも。オットロシ…おやまぁ。
ソビク…ひっぱる。タギル…沸騰する。
ハダグイ…間食。ヒンノム…飲み込む。
マッポシ…真正面。

熊本　イッチョン…すこしも。グゼル…ぐずぐず言う。
ソサカタクリン…逆さまに。ショノム…妬む。
ワカラン…だめだ。ヤオイカン…簡単でない。

宮崎　オジイ…怖い。オラブ…叫ぶ。
ナンカカル…よりかかる。ハゲラシイ…くやしい。
ヨダキー…面倒だ。ホゲル…穴があく。

鹿児島　ナオス…かたずける。

沖縄　イッペー…いしっぱい。

全国ん方言辞典によりゃ　こげな言葉が出血ちくるが　大分ん
シドモガ聞くと懐かしい。こげなふうに方言な　チョコットシタ
事じよそでん使いよるき　広いごたってん日本な　狭えもんでん
あるごたるなぇ。嬉しい事でんあるが……。

野津原ん特色あるいくつかを

◎　美しい場面に

アンマリモドカンナンナ…あんまり　せがいなんなムゲネェ。
チョツトマッチノミヨルキ…少し待って今　飲んでいるき。
セカンデンユックリシヨ…急がんでんいいき　ゆっくりと。
アタダジャガデキタデ…出来あいじゃけんど食べちょきよ。
コッチガスズシイゴタルデ…こつちおいでチッタ涼しいき。
クワンドルオトシタン…ゆう気がちーたな鍬は一番苦手と。
アセリカエーチョイタキ…ちっといらん世話じゃけんどな。
ノキバネイレタキ…濡るるよりゃよかろうちしちゃたで。
ソンママツマンジクイナァ…汚れ手でん自分のじゃきいい。

●　優しい場面が

カッシュウカ…忙しかろうごたるき。お互いん手間がい。
コラエナーナ…あいつも解っちょるんち思う。
イツデンイイナァエ…遠慮してん損でお互い様じゃき。
ムリュシナンナ…無理しちワズロウテン褒むりゃせんき。
ツコーチョキヨ…どこでも切らす事ぁあるもんじゃき。
シンパイセンジイイキ…こまったら話したらすーとする。
ナカンデンワカッチョル…泣きて一時ゃ思い切ってな。
ハラヒトツオアガリ…時やよそん麦飯がいいもんで。
ユックリハイッタナ…たまにゃ忘れてダリュ取らにゃ。
ハヨイヤイイニ…いつまでん一人じ考えじ言うと楽になる。

★　言葉ん中にゃ後じジワート　味が出る事も多いき　思い切って信頼のおける人には　話すこともプラスになる。誤解もあるが自分の欠点もある。じゃき話したことじ　修正の機会にもなっち　早かったのが効果になる。伊達に年は取らんしが多いき　利用したり利用されたり　そこに人間の心ん浄化　絆　交流も育っちくるもんです。

あとがき　№２３号の編集が終わって

年に２回発行になりまして　少し多様になりましたが　その分気合いが入って　ご愛読者皆様との　距離が縮まったように　感じます。この号には　『七瀬川のヤナ』が　懐かしく出ました。全盛期の川祭りは　近郷の名物にもなって　参会者も多かった　そんな思い出が回想されます。

ふるさとの味にも　日本人の基礎となる食べ物が　根強く生きているようです。あげな話にも昔を懐かしむ　人の心が湧いています。方言が飛び出して　若い女性の思い出は　歌あり野菜づくりの片鱗にも　覗かれます。子どもの質問に昔の行事が　心にそっと復活するような嬉しい一時も　寄り添いました。

宇曾山物語街道はスカイツリーと　ほぼ同じの高さに向けて歩いています。熱心な娘が馬子の五助に　質問したり自分の習い覚えた繊細な資料を　縦横に交差させながら　知られざる物語が浮き彫りされて　夢とロマンの多い故郷。だから大好きと笑顔がいじらしい。

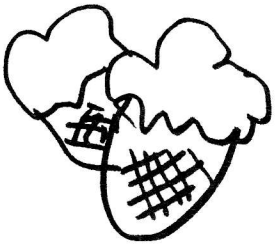
歴史は絶え間なく続き　方言はひっそりと影を　潜めるがその片隅で幼女が　カタコトに話すあどけない方言。仄かに笑顔がこぼれて　単語が続いて広がっています。湛水の語源が出ました。忘れられない捨てがたい　地域の名前も追いながら　いつかきっと又浮上するのを楽しみに。単語は１９２５６語並びました。

次回もお楽しみに　ご愛読の程をお願い申し上げ　お礼と致します。今回もご愛読を誠に　ありがとうございました。

編集者一同

２０１７年　４月発行予定になります。方言単語の広がりをはじめ『方言子どもの世界』『民話伝承』『女性の底力』『ふるさとの味』『宝の玉手箱』『ちょつと一服』『街道物語…宇曾山☞４』『あげな話　こげな話』　などが行列つくって　並びます。

取り組み発足して　２５年に入り　通算３５冊が書棚に並んだと思います。カラフルな表紙紙が　少クスンダかも。素人集団の　全て手づくりの　粗末な冊子ですが　限定１００冊が　愛読されていると　思うと取り組んだ　ことえの喜びも　満喫しながら　皆様のご支援で続けられる　ことに感謝申しています。誠にありがとうございます。

次回のお会いまで　ご自愛の程を。

野津原方言調査会
大分市野津原竹矢
☎　０９７＝５８８＝０５７２
事務局　５８８＝００９２